

第五七二號

往電第五六六號ニ關シ

十四日「ストモニヤコフ」ト會見ノ際「アエログラード」ニ言及シ右ハ國交上甚タ面白カラサル映画ナリト認メラレ殊ニ我通信員ヨリ其ノ上演ニ付本邦ニ打電セル由ニ付必スヤ我國内民衆ヲ刺戟シ居ルコトト憂慮スル次第ニ付蘇側ニ於テ右上演差止ニ付考慮方希望ニ堪ヘスト申入レタル處「ス」ハ右映画ニ對スル批評ヲ耳ニセルカ格別反日的ノモノト認メラレス假ニ右色彩幾分存スルトスルモ之ヲ日本側ノ行ヒ居ル反蘇宣傳ニ比スレハ問題トナラス數年前日本ニ於テ反蘇映画上演ノ際蘇聯大使ヨリ注意ヲ喚起シタル處外務省ハ何等回答ヲ與ヘサリシノミナラス引續キ上演セラレタル事例モアリ又日本陸軍省ハ反蘇冊子ヲ頒布シ且ツ白系露人ニ援助ヲ與ヘ居リ

モスクワ 11月15日後発
本省 11月16日前着

4 その他諸国との外交関係

210 昭和10年1月15日

在ブラジル内山岩太郎臨時代理大使より
広田外務大臣宛(電報)

ブラジルの現状において我が方より多数の移民を送出するには移民導入を同国の利益に合致させる等機微な工作が必要との意見具申

リオデジャネイロ 1月15日後発
本省 1月16日後着

第一一號

貴電第三號ニ關シ

伯刺西爾カ憲法實施後更メテ二八、六二〇人ノ旅券査證ヲ神戸領事ニ訓令シ一九三四年中査證移民ノ本年内入國ヲ許可シ實質上前年度許可數殘リノ殆ト全部本年度持越ヲ認メタルハ客年拙電第二七四號中所謂最大限ノ處置ニテ反對派ヨリ客年拙電第三一五號及本年第二號ノ如ク非難攻撃ヲ受ケタル程明カニ伯國當局ノ誠意アル好意的行爲ト謂ハサルヲ得ス而シテ現在ノ事態ニ於テ最モ肝要ナルハ伯國側ノ此ノ好意的態度ニシテ決シテ理論ノ問題ニ非スト思考セララル

最反蘇的ナル「ハルビンスコエ、ウレーミヤ」紙ノ紀念號發刊ノ際ノ如キ安藤特務機關長ハ同紙ノ功績ヲ賞揚シタル有様ナレハ貴使ハ須ク此ノ種更ニ重大ナル問題ニ注意ヲ拂ハレ度ク假ニ蘇側ニ反日舉措アリトスルモ之ハ全ク日本ノ刺戟ニ基因スルモノニシテ其ノ責任ハ全然貴方ニアルモノト云ハサルヲ得サルト共ニ外務部カ映画上演禁止ヲ發議スルニ於テハ一般ハ右日本側ノ態度ニ顧ミ外務部力不當ニ日本側主張ニ聽從スルモノトシテ非難スヘク到底實行不能ナリト逆襲ヲ試ミタリ依テ本使ハ我方ノ反蘇宣傳ヲ云々セラルルモ元來日本ノ反蘇感情ハ蘇側ノ赤化運動ニ基因スルモノナレハ此ノ責任ハ却テ蘇側ニアリトテ先方ノ主張ヲ反駁シタル上徒ニ對立感情ニ依リ兩國關係ヲ激化スルノ不可ナルコトヲ指摘シテ本件ニ關シ蘇政府ノ深甚ナル反省ヲ促シ置キタリ

滿ニ轉電セリ

ル處其ノ後移民委員會ノ模様ヲ見ルニ勞働省代表ニシテ長年我移民ニ縁故アル「ビネーロ、マシヤード」氏及學者トシテ聲望アル我ニ好意ヲ有スル「ロケット、ピント」博士カ最初委員ニ任命セラレタル後「バスデメーロ」氏特ニ外務省ヲ代表シテ入り更ニ最近聖州政府ヲ代表シテ「モラエスアンドラーデ」氏カ會議ニ列スルコトナリタルハ其ノ顔觸ノミヨリスルモ委員會ノ空氣カ如何ニ我方ニ好轉シツツアルカヲ思ハシメ我方不斷ノ工作モ或ル程度迄酬ヒラレタリト謂ヒ得サルニ非ス(委員會ノ顔觸ハ公表差支無シ)尙委員會ハ目下移民ノ定義及一二一條補款第六ノ「居着セル同國人」ノ意義等ニ付討議シ居ル模様ナルカ我國ニ對シテハ兎ニ角本年三月迄移民誘入ノ途開ケ居ルモ他國ニ對シテハ本年初メヨリ「クオート」ニ依ラサレハ入國困難ナル事情アリ旁昨十四日ノ會議ニ於テ大体勞働省作成案ヲ骨子トシテ採用スルコトニ決定シ恐ラク法律ノ形ヲ取ラス直ニ實施スルニ非スヤト思考セラル其ノ結果ハ日本ハ本年四月一日以後ニ於テ二千八百人ヲ入レ得ル勘定ナルヲ以テ大体三箇月間ハ心配無ク移民ヲ送り得ルコトナル而シテ七月以後ノ分ニ對シテハ日本移民ヲ伯國ニ送ルニハ募集ヨリ伯

國上陸迄尠クトモ二箇月半ヲ要スヘキニ付時期ヲ失セス適當ノ處置ヲ講セサレハ伯國ノ農繁期タル七月八月頃ニ我移民船力空船ニテ「サントス」ニ着クカ如キ事態ヲ見ルヘキ旨警告スルニ止メ本官ハ主トシテ「トーレス」協會一派ノ在伯本邦人壓迫ノ魔手ニ對シ最大ノ警戒ヲ爲シ居ル次第ナリ

要スルニ現在ノ狀態ニ於テ我移民ノ大量誘入ハ之ヲ伯國ノ利益ニ合致セシメ且伯刺西爾側ヲシテ希望（脱）？活動セシムル様極メテ機微ナル工作ヲ要シ呼寄セ問題ヲ持チ出シ殊ニ伯刺西爾ノ最モ好マサル商業移民等ニ付交渉スルコトハ數ニ於テ大ナラサルノミナラス交渉上ニモ未タ其ノ時期ニ非スト思考ス又上塚南拓等ニ關シテハ「アマゾン、パラ」兩地方官憲力我移民ニ熱心ナル事情モアリ當事者ヨリ直接地方官憲ヲ動カシ中央ニ運動セシムルヲ良策ト信ス管下各領事ヘ暗送セリ

211 昭和10年1月24日 在ブラジル沢田（節藏）大使より
広田外務大臣宛（電報）

日本人移民問題については内部工作によりブ

歡迎其ノ他ノ準備ヲ進メ居ル次第ナリ而シテ之ニ引續キ日本ヨリ順次名士ノ來伯アルコトハ前記ノ趣旨達成ノ爲極メテ望マシキコトナリトテ過日内山ヘノ内話（客年十二月二十八日附往信機密第二〇七號参照）ト同様ノ「プログラム」ヲ説述シ本使ニ於テモ盡力アリ度キ旨語り居リタリ尙御信任狀捧呈後懇談ノ際大統領ハ日本工業ハ最近目覺シキ躍進ヲ爲シ來レル處伯國ハ原料生産ニ付日本實業團來伯ノ結果今後益々日伯物資交換ノ途開カルコトナラハ極メテ幸セノ事ニテ右視察團ノ訪問ハ誠ニ結構ト考ヘ居レリト述ヘタリ

委細公信

212 昭和10年2月15日 在米國齋藤大使より
広田外務大臣宛（電報）

パラグアイ國チャコ地方の日本人植民計画につき日本外務省係官が派遣されたとの米國紙報道振りについて

ワシントン 2月15日前發
本省 2月16日前着

ラジル国内の対日感情を善導し適当な時期の到来を待つべきとの同国外相内話について

リオデジャネイロ 1月24日後發
本省 1月25日前着

第一九號
着任挨拶ノ爲去ル二十一日外務大臣往訪種々懇談ス其ノ際本使ヨリハ特ニ移民問題ニ言及セサリシニ拘ラス同大臣ハ自分ハ豫テヨリ日本及日本人ニ對シ敬愛ノ念ヲ有スルモノニシテ新憲法制定ニ關シ日本移民ノ入國ヲ制限スルコトトナルヘキ條項採擇セラレタルコトハ誠ニ遺憾ナリ同憲法ハドノ途此處四、五年ノ内ニハ改訂セラルル事トナルヘシト思ハルル處其ノ際ニハ右條項ノ改訂モ計リ度キモノト内々考ヘ居レリ然レ共差當リ之カ爲目立チタル行動ニ出ツルコトハ却テ右目的ノ貫徹ヲ不可能ナラシムル虞アルヲ以テ此ノ際ハ沈靜ヲ守リ専ラ内部工作ニ依リ伯國內ノ對日感情善導方努力シ必要ノ地盤ヲ作り上ケ適當ナル時機到來ヲ待ち必要ノ行動ニ出ツルコト然ルヘシト思考シ居ル處此ノ意味ニ於テ日本實業團ノ來訪ハ頗ル慶ハシキコトニシテ政府トシテモ是非之ヲシテ效果的ナラシメ度シト存シ目下内々

第八七號

十四日紐育「タイムス」「ブエノスアイレス」特電ハ日本外務省ノ「エイジエンツ」二名「パラグワイ」國「チャコ」地方ニ日本植民地開拓計畫ニ關シ「パ」國政府ト協商ノ爲同日「アスンシオン」ニ來レル旨ヲ報シ居レリ尙右特電ハ計畫ノ詳細ハ未タ決定シ居ラサルモ大体ノ計畫ハ日本政府ノ補助ヲ受ケ居ル日本植民會社ニ於テ移民ノ旅費其ノ他ヲ負擔スルコトトナリ居リ「アスンシオン」政府ハ「パラグワイ」河西方約百哩ノ「チャコ」地方植民ノ爲從來歐洲農民ニ寛大ナル「コンセツション」ヲ「オツファア」シ來レルヲ以テ日本ノ同地植民計畫ハ容易ニ取運フヘシト報シ居レリ

伯及亞ニ轉電セリ

213 昭和10年2月20日 在チリ矢野（真）公使より
広田外務大臣宛（電報）

日本の公使使節団がパラグアイ國政府と交渉しチャコ地方の植民を計画中との報道に関する在チリ國ボリビア公使問い合わせについて

第一五號

本使發亞宛電報御參考迄ニ轉電ス

第一號

「ボリヴィヤ」公使十九日來訪本國政府ノ電訓ニ依ル旨前提シ新聞情報ニ依レハ日本ノ「オフィシャル、ミツシヨ」ハ「パラグアイ」國政府ト交渉シ「チャコ」地方ニ移植民計畫中トノコトナルカ右ニ關シ本使ノ公式聲明ヲ得度シト申出タリ實否御確メノ上御返電請フ

本省ニ轉電セリ

(欄外記入)

パラガイ移民ノ問題ニ關シバ、ボ兩國ノ政治問題ニ卷キ込マレヌ様注意

214 昭和10年3月5日

広田外務大臣より
在サンパウロ市毛(孝三総領事宛(電報))

ブラジルへの移民数が制限された際の送出順

な点が問題との移民委員会長の新聞記者談話

リオデジャネイロ 3月6日後発
本 省 3月7日前着

第四七號

最近移民委員長「ビアンナ」カ「ジユルナル」ニ與ヘタル「インタービュー」ノ大要左ノ通
二分制限憲法規定ハ不合理ナリ之カ實施ニハ統計ノ不備及歐洲戰後ノ新興國民ニ對スル取扱振等極メテ厄介ナル問題アリ又聖州ノミニテモ四萬人ノ労働者ヲ必要トスルニ我等ノ希望スル伊、葡、獨等ノ諸國ハ移民送出禁止ノ政策ヲ執リツツアリ從テ實際問題トシテ努力不足ノ問題ハ解決困難ナリ
日本人ハ立派ナル國民ナルモ急激ニ其ノ數ノ増加スルコト及同化困難ナル點ニ缺點アリ又伯刺西爾當局トシテハ移民ノ分布上何等組織的ノ所ナク日本移民ヲ一箇所ニ集中セシメタルハ誤ナリ云々

216 昭和10年3月20日

在タイ矢田部(保吉)公使より
広田外務大臣宛(電報)

位については貴地関係者等と十分に打ち合わせすべき旨訓令

本省 3月5日後7時30分發

第二四號

貴電第三七號ニ關シ

二分制限實行ニ對スル應急措置トシテハ可成我方ノ利益ヲ主トシコロノノ送出ヲ後廻シトスヘシトハ貴方從來ノ御意見ナリシ處(客年貴電第一二二號及一三二號等参照)
若シ最惡ノ場合總テノ渡航者ヲ含メテ二千八百人ニ制限セラル、コト、ナラハブラ拓、南拓、上塚關係、力行會、近親者ノ呼寄等ニ對シ先以テ充分ノ考慮ヲ加フルニ非レハ國內輿論ヲ刺戟スルノ虞レモアリ貴案ニテハ其満足ヲ得難キ懸念アリ貴案ハ右等關係者ノ諒解濟ナリヤ又大使館トモ篤ト打合せヲ了セラレタル次第ナリヤ回電アリ度シ
貴電ト共ニリオニ暗送アリタシ

215 昭和10年3月6日

在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)

ブラジルで日本人移民の急増および同化困難

仲裁裁判条約に関し法律的事項の義務的裁判
および調停委員会への第三国人参加などタイ
側希望について

バンコク 3月20日後發
本 省 3月20日後着

第九三號

客年九月二十四日附拙信機密公第一五〇號ニ關シ(日暹間調停及仲裁裁判條約締結ニ關スル件)
本件交渉ハ其ノ後内閣ノ總辭職皇帝退位問題ノ紛糾次テ本使病氣等ノ事情ノ外外務省米人顧問カ契約期限滿了退任スルヲ待ツヲ我方ニ有利ト認メタルカ爲久シク延期シ居タル處十九日外務省顧問「プリンス、バンバイ」ト非公式會談ヲ開始セリ

暹羅側ハ我方提出ノ基本要綱ニ依リテ會談ヲ進ムルヨリ條約案ニ依リ會談ヲ進ムル方交渉促進ニ便利ナリトノ理由ニ依リ條約案ノ提出ヲ希望シ居レリ依テ兼テ用意ノ條約案ヲ來週頃提出シ度キ所存ナル處差支ヘ無キヤ折返シ御回示相煩度シ

基本要綱ニ付暹羅側ニ於テ最モ難色アル點ハ今日ノ會見ニ

於テ本使ノ得タル印象ニ依レハ仲裁裁判ニ關シ特別取極ヲ必要トスル點ニ在リ暹羅側ハ少クトモ法律的事項ニ付テハ義務的裁判ヲ欲シ居レリ(常設司法裁判所ニ附託スルコト不可ナラハ海牙仲裁裁判所ニテモ可ナリト言フニ在リ)更ニ調停ニ付テノ暹羅側希望ハ調停委員會構成ニ付第三國人ヲ加ヘ度少クトモ暹羅委員ニ第三國人任命ノ自由ヲ得度シト言ヒ(暹羅政府顧問タル第三國人ノ如キヲ考ヘ居レル如シ)更ニ仲裁裁判及調停ニ關シ又調印前ノ事實及狀態ヨリ生シタル紛争ヲ適用ヨリ除外スルハ餘リニ茫漠タリト云ヘリ要スルニ暹羅側トシテハ冒頭拙信申進ノ通依然廣範且包括的ナル條約締結ヲ希望シ居ル處我方立場ハ相當了解シ居リ出來得ル丈可能ナル範圍迄我方要求ヲ容レントスルノ意嚮ハ有シ居ルモノノ如ク勿論條約案ニ付テ交渉開始ノ上ナラテハ其ノ他ノ難點等全部的ニハ豫想シ得ラレサルモ少クトモ前記三點ニ付テハ我方希望貫徹ハ容易ナラスト思考セラ

217 昭和10年3月26日 在独国武者小路大使より
広田外務大臣宛(電報)

ズヤトモ思ハル)

編 注 本電番は原本に記入されていないが、内容から63文書と
思われる。

218 昭和10年3月28日 広田外務大臣より
在独国武者小路大使宛(電報)

南洋委任統治地域に関する在本邦独国大使の
発言については同大使が我が方外務大臣来訪
の際における発言を議会で報告した旨回答

本省 3月28日後0時10分発

第二〇號

貴電第六三號ニ關シ

(一)往電第一九號獨逸大使本大臣ヲ來訪ノ際本大臣ハ外國新聞中ニハ日獨同盟説、獨逸ノ南洋委任統治地域返還要求説ノ如キ無根ノ報道ヲ爲ス虞アルモノアルニ付注意ヲ要スル旨述べタルニ對シ獨逸大使ハ獨逸ハ仮令植民地領有ヲ希望ストスルモ右諸島ノ返還ヲ要求スル意思ナキ旨ヲ述べタル處議會豫算委員會ニ於テ獨逸ノ再軍備問題ハ委任統治地域返還請求ノ問題ヲ惹起セザルヤト質問アリタルヲ以テ本

我が方外務大臣が議会において在本邦独国大使が同国は南洋委任統治地域返還要求せずと
確言した旨公表したとの新聞報道につき照会

ベルリン 3月26日後発
本省 3月27日前着

第六三號

佛國新聞ノ再録セル聯合ニ依レハ貴大臣ハ獨逸大使力獨逸ハ南洋委任統治地域返還ノ要求ヲナス意圖無キヲ確言シタル旨議會ニ於テ聲明セラレタル趣又當地新聞カExchange Telegraph 東京通信トシテ傳フル處ニ依レハ次官ハ英國大使ニ對シ日本ハ招請アラハ獨逸再軍備ニ關シ平和條約調印國會義ニ參加ノ用意アル旨述べヘラレタリトノコトナルカ各方面ニ對スル應對上ノ參考ノ爲右ニ關スル事實電報アリ度シ

(欄外記入)

(欄外記入)

(1)ハ議會記錄參照

(2)ハ英大使來訪廿五日ノ際往電第^(編注)号ノデिल्クゼン大使來訪ノ要領ヲ必要ニ應ジ答ヘタルノミナリ。(或ハ英國ノ宣傳ニアラ

大臣ハ在京獨逸大使ハスカル考ヘヲ有セザル旨言明セリト答辯シ置タリ

(二)二十五日英國大使重光次官ヲ來訪獨逸再軍備問題ニ付情報ヲ求メタルニ付次官ヨリ往電第一九號本大臣ト獨逸大使ノ會談ノ要領ヲ傳ヘタルニ止マリ御來示ノ如キコトヲ述べタル事實ナシ

尤モ本邦新聞中ニハ日本側ノ態度トシテ本件通信ノ如キ記事ヲ掲ケタルモノ一二アレドモ右ハ固ヨリ新聞側ガ勝手ニ推測セルモノニスギズ

本電貴電ト共ニ英、佛、伊、白、蘇、壽府ヘ轉電アリ度シ

219 昭和10年4月5日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

調停委員会への第三国人参加などタイ仲裁裁
判条約我が方草案に対する先方意見について

バンコク 4月5日後発
本省 4月5日後着

第一〇六號

貴電第五六號ニ關シ(日暹仲裁々判條約ニ關スル件)

客月二十九日條約草案ヲ送付シ置キ三日「バンバイ」顧問ト會見右ニ對スル暹羅側ノ意見ヲ聴取シタリ大要左ノ通

「第二條第二項ニ關シ政府ハ各國カ任命スル委員二名宛ノ内一名宛ハ第三國人ヲ以テシ得ヘク又別ニ委員長トシテ兩締約國ノ合意ニ依リ第三國人ヲ任命スルコト

調停委員會ニ第三國人ヲ加ヘス兩國間ノ紛爭ハ兩國人同志ニテ解決スヘシトノ原案ノ建前ハ暹羅側モ主義上不賛成ニ非サルモ暹羅ノ如キ小國トシテハ大國ト對等ノ主張ヲ爲スコト事實上不可能ナルヘキヲ惧レテ委員長トシテ第三國人ノ任命ヲ主張スルモノナリ思フニ我方原案ノ如ク兩國同數委員ヲ以テスルニ於テハ到底解決案ニ到達スルコト不可能ナル場合多キコト當然想像セラレ從テ原案ノ固執ハ調停ニ依ル紛爭解決ニ對スル我誠意ヲ疑ハルル結果トナルヘク而モ調停委員會ノ判斷ニハ束縛セラルルコトナシトノ規定ニ付テハ暹羅側モ異存ヲ唱ヘ居ラサルコトナレハ第三國人ヲ委員長トスルモ差支ナカルヘシト存ス尙暹羅政府ハ外國人顧問ヲ漸次廢スル方針ナルカ外務顧問ハ當分存置ヲ必要トスル由ニテ右顧問ヲ調停委員ノ一人トシテ任命スル場合ア

(イ) 法律的性質ヲ有スル紛爭ヲ暹蘭條約第二條ニ倣ヒ例示スルコト

(ロ) 特別取極設定ニ「タイム、リミット」(例ヘハ三箇月)ヲ附スルコト

五 第九條ニ關シ

紛爭委託裁判所ハ豫メ條約ニ於テ確定シ置クコト尤モ前項(ロ)ノ「タイム、リミット」ヲ規定シ得ルニ於テハ本條ハ原案ノ儘ニテ差支ナキコト前記^四ノ(イ)ハ紛爭カ法律的紛爭ナリヤ否ヤニ付論爭ノ發生ヲ防キ度シトノ趣旨ニテ原案第八條カ條約ノ解決ノミヲ特ニ掲ケタルニ比シ範圍ヲ擴大セントスルモノナリ(ロ)原案第八條特別取極ヲ必要トスル點ニ付テハ先方ニ頗ル難色アリ by common consentノ前ノ andハオトスヘシト主張シタルモ斯テハ到底樞密院ノ承認ヲ經ルコト不可能ナリトノ理由ヲ以テ特別取極ヲ必要トスル主義ヲ承認セシムルヲ得タルカ其ノ代ニ先方ハ之ニ「タイム、リミット」ヲ附スルコトヲ申出テタル次第ニシテ此ノ點ニ付テ先方ハ日蘭條約第三條第二項ニ「タイム、リミット」ヲ附シ居ルコトヲ引例シ居レリ然ルニ第八條ニ「タイム、リミット」ヲ附スルカ爲ニ必ス該期間内ニハ特別取極

ルヲ想像シ居レリ此ノ點日蘭條約ノ範圍ヲ逸スル次第ニモ非サル故ニ二名ノ内一名ハ當該國政府ノ「サービス」ニアル第三國人ヲ任命スルノ自由ヲ相互ニ留保スルコトトシテハ如何カト存ス

「第二條第二項ニ關シ第二章句 their appointment」云々ハ意義明確ナラスト云ヘリ右ハ委員會ノ繼續性ヲ確保スル爲ニ前任者任期滿了スルモ後任者ノ任命アル迄ハ職務ヲ繼續スヘシトノ意味ナリト考フル處或ハ任期中ニ於テモ委員ヲ交替セシメ得ルコトヲ想像セル規定ナリヤ

三 第六條ニ關シ

冒頭ニ「條約國間ニ反對ノ合意アルニ非サル限り」ト有ルヲ「條約國ノ一方ノ請求アリタル場合ヲ除クノ外」ト改ムルコト

右ハ今日民衆政治ノ時代トナリテハ議會等ノ要求アル時政府トシテ發表ヲ拒ミ難キ場合アルヲ豫想スルモノナリ此ノ點ニ付テハ公開審理ハ同意シ難キモ經過報告等發表案ヲ協定スル趣意ノ提議ヲ爲シ妥結ヲ計ルコトトシテハ如何カト存ス

四 第八條ニ關シ

ニ到達セサルヘカラサルコトトナリ從テ特別取極ヲ必要トスル我方本來ノ意義カ沒却セラルルカ如キコトハ承認スヘカラサルヲ以テ此ノ間ニ何等適當ノ modifier ヲ工夫セララルカ或ハ寧ロ日蘭條約第三條第二項ノ例ニ依リ第九條ノ第二項ニ管轄裁判所ノ選擇又ハ設置ニ付相當期間内(例ヘハ六箇月)ニ合意成立セサル時ハ原案第八條ニ定メラレタル手續ニ從ヒ(特別取極ノ方法ニ依ルコトヲ意味ス)紛爭ハ海牙仲裁々判所ニ附托セラルヘシトナスカ如キ提案ヲ爲シテ妥結ヲ計リテハ如何カト存ス

六 第一二條第二項ニ關シ

As far as possible ヲ削除シ度キコト英語ノ右文句ハ事實上無意義ナリト言フニ在リ日蘭條約第二二條ハ「何等ノ措置ヲ取ラス」トアリ此ノ點ハ暹羅側申出ヲ承認スルコト差支ナシト存ス

「以上我提案ニ對スル修正意見ノ外ニ法律的紛爭以外ノモノ (disputes of non-legal nature) ニ關シテモ合意ノ上仲裁裁判所ニ附托^五シ得ル條項ヲ設ケ度キコトヲ提議セリ其ノ理由ハ由來戰爭ノ原因トナルカ如キ紛爭ハ政治的性質ノモノ多キニ拘ラス斯ル紛爭ヲ仲裁裁判ニ附托^五シ得ストスル

(欄外記入一)

ニ於テハ條約締結ノ效果極メテ薄弱ナリトノ非難議會方面ヨリ來ルヲ免カレスト言フニ在リ然ルニ此ノ點ハ從來我方ニ條約上ノ先例ナシト存セラレ日蘭條約ノ範圍ヲモ逸脱スルモノナルニ鑑ミ我方ノ受諾シ兼タル所ナルヘシト考ヘラルハ以上ノ外草案各條異議ナシト言ヘリ尙往電第九三號暹羅側ノ最重キヲ置クト思ハレタル三點ノ内調停委員會ノ組織ト仲裁裁判ニ關スル特別取極ノ點ニ付テハ既述ノ通ナルカ草案第一一條調印前ノ事實及狀態ヨリ生スル紛争ヲ適用外トスル點ニ付テハ前回ノ會見ニ於テ舊癢ヲ洗ハストノ趣旨ニテ懇談シ置キタル點ヲ了解シタルモノト見エ本日ノ會見ニ於テハ何等言及スルコトナク我方提案通り承認セルモノト認ム

ハ司法的解決ニ付テハ國際聯盟ヲ脱退シタル日本ノ地位ニ顧ミ始ヨリ之ヲ問題トセサルコトニ仕向ケ來リ先般退任セル米人顧問ハ之ヲ主張シ居リタルニ反シ「バンバイ」ハ此ノ點ニ觸レス

三我方原案第十二條第一項ハ専ラ仲裁裁判ニ關スルコトナレハ之ヲ第二項中ニ移シ新ニ一箇條ヲ設クルヲ妥當ト存ス(此ノ點暹羅側ノ提議ニハ非ラス)

查ノ結果ニ依レバ今日迄活動シタル事例ヲ見ザルガ如キ事情ニアリ此點ニ鑑ミ當方ニ於テハ調停委員會ノ構成ニ付テハ別個ノ觀點即チ日暹兩國ノ東亞ニ於ケル責任及東亞民族トシテノ共同ノ意識ニ立脚シ兩國間ノ紛争ハ東亞ノ圈内ニ於テ解決セントスルノ意思ヲ闡明セントスル大局上ノ見地ヨリシテ第三國人即實際上歐米人ヲ排除セントスルノ主義ヲ提議シタルモノニ外ナラズ後者ノ思想ハ日蘭條約審査ノ際樞密院ニ於テモ力說セラルル處アリタリ

付テハ暹羅側ニ對シ法律技術上ノ考慮ニ因ハレズ大局上ヨリ第二條第一項ヲ其儘受諾スル様重ネテ御交渉アリタシ

尙調停委員會ニ顧問トシテ暹羅國政府ノ「サーピス」ニアル第三國人ヲ任用スルコトヲ得セシムル爲例ヘバ日蘭第十八條ノ如キ規定ヲ置クコトニハ當方ニ於テ何等異議ナシ

ニ第二條第二項ニ關シテ一般議定書ニ同一用例アルニ依リタルモ更ニ明確ニスル爲左記代案ヲ作成シタリ

2. The commissioners shall be appointed for

前項各項ニ對シ貴見何分ノ儀御同電相成度就中第三乃至第五ノ點ニ關スル提案ニ付テハ英文「テキスト」御垂示ヲ請フ

220 昭和10年4月13日 広田外務大臣より
在タイ矢田部公使宛(電報)

日タイ仲裁裁判条約の調停委員会構成などに
関する我が方代案につき訓令

本省 4月13日後5時30分発

第七二號

貴電第一〇六號ニ關シ

ニ第二條第一項調停委員會ニ第三國人ヲ加ヘズ兩國間ノ紛争ハ兩國人同志ニテ解決スベシトノ建前ニ關シテハ本件條約締結ノ理由ガ日暹間現在ノ友好關係ヲ一層敦厚ナラシメントスル趣旨ニ出ヅルモノニシテ元來當方ニ於テハ將來實際ニ調停手續ニ附託スルコトヲ必要トスルガ如キ紛議ノ日暹間ニ生ズルコトアルベシトハ思考シ居ラズ從テ調停委員會ノ現實ニ活動スルガ如キコトハ豫期セザル處ナリ現在存在スル諸外國調停委員會ノ如キモ當方調

four years, and their mandate is renewable. Their appointment shall continue until their replacement, and in any case until the termination of the work in hand at the moment of the expiry of their mandate.

三第六條ハ貴電御申越ノ次第モアリ左記代案ヲ作成シタリ
右ハ一般議定書、日蘭、佛蘭トノ同種規定ヲ採レルモノトス

1. The proceedings of the Permanent Conciliation Commission shall not be public except when a decision to that effect has been taken by the Commission with the consent of the Parties.

2. The High Contracting Parties undertake not to publish the result of the Commission's work without previously consulting each other.

四 第八條ニ關シ

(イ) 法律的性質ヲ有スル紛争ヲ暹蘭條約第二條ニ做ヒ例示スルコトトシ第八條前半ヲ左ノ通變更シタリ

Disputes of a legal nature - which character is hereby declared to be generally and notably borne

by disputes as to -

- a) the interpretation of a treaty,
- b) any question of international law,
- c) the existence of any fact which, if established, would constitute a breach of any international obligation,

d) the extent and nature of the reparation to be made for the breach of an international obligation -

which may arise between the High Contracting Parties and which may not have been submitted to the permanent Conciliation Commission, or, having been submitted to it, may not have been settled within three months after the drawing up of its report,

(ロ)特別取極設定ニ「タイム、リミット」ヲ附スルコトハ貴見ノ通り困難ナリ

五、第九條即チ裁判所ノ設定ニ關シテ日蘭第三條第二項ニ倣^(敬)ヒ「タイム、リミット」ヲ置クコトハ技術上困難ナル如

官御含迄)

尙條文ノ配列其他細部ノ訂正ハ原則ニ付意見一致シタル上更メテ一括之ヲ行フコトト致シ度シ

(欄外記入一)

最終案トシテハ外國人政府顧問ヲ委員トシテ認ムル位ハ讓ルコトトシ度

(欄外記入二)

先例ヲ教ヘテヤルコトトシ度

221 昭和10年4月27日

在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)

日本人移民をより多く受入れるためブラジル
移民委員会が憲法案を最大限有利に解釈すべ
く努力中との觀察について

リオデジャネイロ 4月27日後発
本 省 4月28日前着

第^(イ)八八號

移民問題ニ關シ當方面其ノ後ノ狀態ヲ按スルニ一方ニ於テ

ク思考セラルルモ貴電御申越ノ案ニテ先方カ納得シ得ルニ於テハ更メテ考究スヘシ

六、第一二條第二項ニ關シ

(イ) As far as possible ノ文字ハ外國條約ニ於テ先例アリ(例ヘバー九二八、五、三〇、伊士仲裁々判及調停條約)又(ロ

本件條約カ太平洋沿岸ノ第三國トノ條約ノ先例トナルヘキヲ以テ右ヲ存置スルコト必要ト思考セラレ且他方本件條約締結カ^ニノ如キ理由ニ基クモノニシテ現實ニ紛爭ノ生スルコトナキモノトスル建前ナルヲ以テ本條ハ此儘受理スル様重ネテ交渉アリタシ

七、非法律的紛爭ヲ合意ノ上仲裁裁判所ニ附託スルノ件ニ付テハ非法律的紛爭ハ性質上法規ノ適用ヲ主眼トスル仲裁裁判所ノ裁定ニ適セサルヲ以テ遺憾^乍ラ之ヲ受諾シ難ク一方日暹兩國ハ境土ヲ接シ居ラサル關係モアリ政治的紛爭ノ生スルコトハ想像シ得ラレズ又仮令此種紛爭アリトスルモ外交的手段ニ依リ解決シ得ベキ次第ニ付此種規定ヲ設クル必要モナカルベク旁本件ハ斷念セラレ度旨回答アリタシ(尙本件條約ハ第三國トノ條約ノ先例トナルヘキヲ以テ本邦トシテハ本提議ノ如キ趣旨ハ受諾シ得ス貴

(欄外記入二)

努力ノ不足ヲ訴ヘ移民入國制限緩和要望ノ聲アルモ左リトテ日本移民ヲ以テ此ノ不足ヲ補フヘシトノ強キ主張ヲナス者無ク過般本使聖州訪問ノ際接觸セル有力者ハ何レモ多分ニ此ノ傾向ヲ示シ(詳細郵報濟)他方反對者ハ依然其ノ銳鋒ヲ緩メス滯在中本使ニ對シ特別盛ナル歡待ヲ與ヘ居ル一方主要新聞ニテ先般迄ノ日本移民ノ入國ヲ以テ伯國憲法ヲ蹂躪セルモノナリトノ暴論ヲ述ヘ強硬ナル反對論ヲ煽リ居タルモノアリタル程ナルカ此ノ間ニ立チ外務、勞働當局及移民委員會ニ於テハ種々苦慮ヲ重ネ居ルモノト認メラルルモ未タニ「クオート」ヲ確定シ得ス當方トシテハ幾分ニテモ我カ移民入國數ヲ増加シタキ趣旨ニテ種々努力ヲ續ケ居ルモ最近移民委員會ノ空氣ハ結局憲法條項ノ適用上之ヲ無視スルコトトナルカ如キ手加減ヲ加フルコト困難ナリトスル傾向漸次濃厚トナリツツアルモノノ如ク過般來内山カ委員會幹部ヨリ得タル情報ヲ綜合スルニ同委員會トシテハ大要左ノ解決ヲ爲スニ至ルニ非サヤト想像セラ

ル
一、現行割當數ハ一九三三迄ノ海興取扱移民ノミヲ基礎トセルモノナル處更ニ一八八四年以來統計洩ノ假定數約一萬ヲ

基本數字ニ加算スルコト

ニ移民ノ定義上入國ノ際十四歳以下ノ子供ヲ割當數ニ加算セサルコト（其ノ結果頭數ハ約三割増トナルヘシト言フ）
三再渡航者ハ一定期間ニ限り割當數外トス但シ呼寄ハ全部割當數ニ加算ス

四憲法條項ニ「最近五十年」トアルヲ永續的ニ憲法公布ノ時ヨリ起算スルコトトセス毎年其ノ年度ヨリ遡り過去五十年間ト解ス從テ日本ノ場合ハ最初ノ一八八四年ニ五十人入國シタリト假定セハ之ヲ除外スル際一九三四年ノ二萬四千人ヲ以テ置替フルカ故ニ基本數ニ大ナル開キヲ生シ割當數モ年々増加スル結果トナルヘシ

委員會ニテハ大体之ヲ以テ憲法條項並ニ現行法規ノ解釋ノ許ス最大限ノ條件ト考ヘ居ルモノノ如ク而シテ之トテモ未タ確定セルモノニ非ス全ク腹案ニ過キス假リニ其ノ儘採用セラルルトスルモ尙幾多ノ手續ヲ要スヘキ由ニ付愈決定發表ヲ見ル迄ハ幾多變更アルヤモ知レサルニ付右ハ絕對ニ部外秘取扱致度シ

尙當方トシテハ假リニ右ノ通決定ヲ見ルコトアリトスルモ依然憲法上ノ制限撤廢乃至右決定ニ豫想セラルル以上ノ數

タルニ拘ラス尙舊獨植民地ノ行政ヲ保有シ居レリ若シ獨ニシテ植民地ヲ統治スル資格無シト認メラルルニ於テハ何處ニ平等權アリヤト主張セルニ對シ自分及「イーデン」ハmandateノ分配ハ聯盟ノany individual memberノ問題ニアラス右ハ聯盟自身ノ問題ナリト答ヘタリト云フヤ「チエムバーレン」ハ直ニ立ツテ之ヲ否定シ（本點ハ重要ナル點ナリ外相ノ言ノ通リトセハ全体的ニ誤解ヲ生シ英政府ニ於テ新方針ヲ採レルカ如ク諒解ヲ生スル虞アリmandateハ「ヴェルサイユ」ニ於テ各國カ割當テタルモノニシテ委任統治地域ハ聯盟ノ保護下ニ置カレタルモノナリ或一國ヨリ他國ヘノ委任統治地域ノ移轉ヲ聯盟ノ權限内ニ置キタルコト曾テ無シ）ト注意セルニ外相ハ右訂正ヲ感謝シ要スルニ自分等ハ獨ノ此ノ點ニ關シ劣等ノ地位ニ置カレタリトノ考ハ支持シ得サルモノナルコトヲ明カニシ置キタリト述ベタリ

223

昭和10年5月6日 在独国武者小路大使より
広田外務大臣宛（電報）

我が方委任統治問題に関するヒトラー首相の

ノ移入ニ目標ヲ置キ豫定ノ通工作ヲ續クヘキモ四圍ノ事情前記ノ如ク必スシモ我方ニ有利ナリト認メラレス此ノ際在伯邦人ノ權益擁護モ亦決シテ等閑ニ附シ得サル事情アリ他面政治季節モ差迫リツツアレハ今後内外共ニ慎重行動シ一層努力ノ要アリト思考ス
管内各館ヘ轉電セリ

222

昭和10年5月4日 在英国松平大使より
広田外務大臣宛（電報）

ヒトラー首相が連盟脱退後の日本による委任統治継続に不満を漏らした旨の英国議會における同国外相の報告について

ロンドン 5月4日午後
本 省 5月4日午後

第二六一號

往電第一六〇號ニ關シ

「サイモン」演說中委任統治ニ關スル件ハ時節柄御參考トナルヘキニ付左ノ通り切離シ報告ス

植民地保有ニ關シテハ「ヒトラー」ハ日本ハ聯盟ヲ去リ

發言はヴェルサイユ条約への一般的不満を表
明したとの独国外相の説明について

ベルリン 5月6日午後
本 省 5月7日午前

第七八號

英國外務大臣カ議會ニ於テ過般同大臣訪獨ノ際獨宰相カ植民地ニ關シテ陳述シタル内ニ日本ニモ言及シタルヤノ報アリタルニ付六日本使獨外務大臣往訪ノ節本件ニ付問合セタル處同大臣ハ自分ノ聞知スル所ニテハ英外相カ獨逸ノ聯盟復歸ヲ希望シタルニ對シ「ヒットラー」カ「ヴェルサイユ」條約ノ不當ヲ並ヘタル際日本ノ如キハ聯盟外ニ在ルモ尙委任統治地域ノ保有ヲ認メラレ居ルニモ拘ラス獨逸ハ右條約ノ結果海外領土ノ領有ヲ禁セラレ居ル點ヲ指摘シタル迄ニテ特ニ何レノ領土ヲ獲得シ度シト述ヘタル様ノ次第ニハ非スト返答シタリ

在歐各大使、米へ暗送セリ

224

昭和10年6月15日 在ベルー村上（義温）公使より
広田外務大臣宛

ペルーにおいて同国人八割雇用例施行後も
日本人への影響は少ないが法律改正に向けて
同国政府への運動は継続中との報告について
機密公第七六號
(8月3日接受)

昭和十年六月十五日

在秘露

特命全權公使 村上 義温(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

秘國人八割雇備條令ニ關スル交渉経過報告ノ件

本件ニ關シテハ客年八月六日附機密第一一八號拙信ヲ以テ
報告ノ次第アリタル處其ノ後ノ交渉経過ニ關シ何等御參考
ニマテ別紙^(通)ノ通り報告申進ス

右交渉ノ結果現在ニ於テハ本件條令ハ其儘存續シ遂ニ実施
ニ至レリト雖モ在留邦人ニ關スル限り(一)經營者ヲ含メテ就
働者五人以下ノ小規模營業所ニハ本條令ノ履行ヲ強要セス
(二)五人以上ノ向キニ對シテモ八割ノ比率ニ適合スル爲ノ餘
剩雇邦人ハ或ハ之ヲ共同經營者トスルコトニヨリ或ハ之ヲ
營業上必須ノ専門家^(同)(輸入邦品ノ鑑別又ハ日本トノ通信ノ
如キ邦人ニヨルヲ要スル事務ニ當ルモノヲ含ム)トシテ申

第七三號

「パ」「ボ」兩國紛爭解決ノ爲先頃來「ア」中ナリシ「パ」
國外務大臣ノ談トシテ仄聞スル所ニ依レハ「パ」國ハ戰後
疲弊セル國力回復ノ爲産業ノ振興ヲ必要トスル處夫レニハ
人口ノ増殖ヲ焦眉ノ急務トスルヲ以テ今後同國入來ノ移民
ニハ土地ヲ無償又ハ低廉價格ニテ提供シ定住ヲ慫慂スル方
針ナリト云フ
就テハ右内情ノ實否ヲ確メタル上ニ非サレハ土地購入ヲ促
進スルハ不得策ナリト思考ス(武田拓務書記官御承知)

226

昭和十年8月1日 在オランダ武富公使より
広田外務大臣宛(電報)

日蘭仲裁裁判条約に關し調停委員もほぼ確定
し批准書交換も近く行われる見込みにつき議
長の人選等開始したい旨意見申

付記一

昭和八年九月十八日発在オランダ斎藤公使より
広田外務大臣宛電報第九八号
日蘭常設調停委員会第三国人委員の人選につき
オランダ外相より同国案提示について

請シ即チ形式的ニ本件條令ニ適合セシムルコトニヨリ之ヲ
八割ノ算定ヨリ除外スルコトニ内定シ之ニヨリ實際上ニハ
邦人ノ營業及雇備並ニ入國ニ何等変更ナキヲ得居ル次第ナリ
但シ本法自体ノ改正未タ行ハレス政府トシテ法ヲ枉ケ居ル
弱點アリ又邦人一般ニ同胞雇備ニ偏重シ苟クモ利ノアル所
之ヲ收メテ餘サ、ルカ如キ感觸ヲ秘人ニ與フル爲外界ヨリ
兎角ニ論議サル、虞アリ仍而一面在留邦人ニ於テ可及的限
度マテ秘人ノ僱増シヲ實現シ以テ當國官民ノ理解アル同情
ヲ得ルニ努ムルト共ニ他面政府當局ヲシテ我方所要ノ除外
ヲ改正法令ヲ以テ明記セシムル要アル次第ナリ

尚本件ニ關スル委細ハ別紙^(通)ニ付御閱悉相成度此段申報ス

225

昭和十年7月5日 在アルゼンチン山崎(次郎)公使より
広田外務大臣宛(電報)

パラグアイ国が人口増加政策のため移民に対
し土地を無償または低廉価格で提供すると
の
同国外相談話について

ブエノスアイレス 7月5日後発
本 省 7月6日前着

二 昭和九年四月四日発在オランダ武富公使より広
田外務大臣宛電報第五〇号

調停委員に非ヨーロッパ人を加えることを認め
るので本件条約批准促進につき本国に伝達あり
たいとのオランダ国外相の意向について

三 五月三十一日付、作成局課不明

「日本國和蘭國間司法的解決、仲裁裁判及調停
條約御批准ノ件審査報告」

四 六月五日付、作成局課不明

「樞密院本會議議事録」

第四九號

貴電第五九號ニ關シ(日蘭調停委員會委員ノ人選ニ關スル
件)

御承知ノ通り蘭側トノ内交渉ニ於テハ其ノ第一回ノ提案タ
ル三名ヲ全部拒否シ更ニ我方ノ意向ヲ容レテ提案シ來リタ
ル「フ」「ロ」「モ」ニモ歐洲人以外ノ者ヲ入レ度シトノ意
味ニテ我方ノ希望セル「フエルナンデス」ヲ「モ」ト入代

フルコトニ異議無キヲ表示シ居リ(客年往電第五〇號)蘭側ニテハ最早調停委員ハ成案ヲ得タルモノト思考シ居ル模様ナルニ付我ニ於テ特別ノ故障無キ限り今更折衝ノ餘地モ照會ノ結果ト承知スル處御批准書モ卅日接到不日交換ノ運ヒトナル手筈ニテ其ノ上ハ早速調停委員ヲ定メ且議長ノ人選ヲモ談合ヲ始メネハナラヌ次第ニ付誰ヲ議長トスルカノ問題及我方調停委員ヲ誰トスルカノ點等ニ付大体ノ御意向ニテモ御電示置ヲ請フ尙前記四名ニ關スル所見ハ追テ電報スヘシ

伊、伯、瑞典、瑞西へ轉電セリ

(付記一)

ハーグ 昭和8年9月18日後発
本省 昭和8年9月19日前着

第九八號

往電第八八號(ニ)關シ

十八日求メニ應シ外相ヲ往訪セル處外相ハ日蘭常設調停委員會第三國委員選任問題ニ關シ左ノ如キ案ヲ提示シ我方ノ意向ヲ求ムル處アリタリ(蘭國側ヨリ候補者承認ニ何等話

合等「コミット」シ居ラサル趣ナリ)
議長 Lord Hardinge of Penhurst 前印度總督前駐露英國大使
委員 M. B. Osten Unden 前瑞典外相及法相
M. Alberto Guami 駐佛「ウルグアイ」公使
右和蘭側提案ニ關シテハ本件調停委員ノ詮衡ヲ條約批准前ニ開始スルコトハ本邦側ノ希望ナル點ニモ鑑ミ慎重御考慮ノ上至急御回訓相成様致度尙右顏振中「ウンデン」ハ聯盟總會ニ於ケル行懸モアリ之ヲ受諾セサルコト適當ト認メラ

(付記二)

ハーグ 昭和9年4月4日後発
本省 昭和9年4月5日前着

第五〇號

四日求メニ應シ外務大臣ヲ往訪シタル處同大臣ハ仲裁裁判條約調印後既二一年トナリ蘭國側トシテハ比^(註)准手續ヲ了シ居ルノミナラス條約ニ依ル調停委員ノ人選ニ付テモ齋藤公使時代ニ日本側ノ意向ヲモ徴シ「フーバー」^(註)「ロツコ」^(註)「モ

(欄外記入)

ウインケル^(註)」ノ三名ヲ提議シ置キ只管日本側ノ批准ヲ待チ居ル次第ナリト語り更ニ日本側ニテハ歐洲人以外ノモノモ一名加ヘ度意向ノ由ナルニ付日本側ノ希望セラルル伯刺西爾「フエルナンデス」ヲ「モウインケル」ノ代リニ三名中ニ入ルル事ニ蘭國側トシテ同意シ差支無キヲ以テ此ノ際日本側ノ批准手續ヲ促進セラルル様斡旋アリ度旨ヲ本使ニ申出タリ右ニ對シ本使ハ日本側ノ批准手續後レ居ルハ遺憾ナルモ從來トテモ我國ニハ特殊ノ事情アリテ調印後數年ヲ經テ批准セラレタル例モアリ又樞密院審議ノ關係上帝國議會開會中ハ此ノ種條約ノ批准手續後レ勝ナルハ已ムヲ得サル事ニシテ殊ニ蘭印ノ對日制限措置等ニ刺戟セラレタル方面ニハ感情的ニ此ノ際此ノ種條約ノ批准手續進行ニ異議ヲ稱フルモノ無之ヲ保セサルモ蘭國政府ノ御意向ハ本國ニ電報シ促進方稟請スヘシト答ヘ置キタリ

本件ニ關シテハ調停委員ノ内銓衡ニ當リ前任公使ヨリモ我方ノ批准ハナルヘク速ニ行ハルヘシト申入アル次第ニモアルニ付御批准手續進行遅延ノ眞相ハ本使含迄ニテモ當國側トノ應接振ト共ニ御電報ヲ請フ

(欄外記入)

眞相―武富公使ノ考ヘ居ルガ如キコトナシ―事實ヲ其儘言ヒテ可ナラン

(付記三)

日本國和蘭國間司法的解決、仲裁裁判及調停條約御批准ノ件審査報告

今回御諮詢ノ日本國和蘭國間司法的解決、仲裁裁判及調停條約御批准ノ件ニ付本官等審査委員ヲ命ゼラレ數次委員會ヲ開キテ當局大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽取シ以テ之ガ查覈ヲ遂ゲタリ

抑々國際紛爭ヲ平和的手段ニ依リ解決スル爲メ之ヲ調停、仲裁裁判又ハ國際司法裁判ニ付託スルノ制度ハ輒近著シキ發達ヲ來シ歐米諸國間ニハ之ニ關スル多數ノ條約現存シ其ノ規定スル所モ亦漸次擴充セラルルニ至レリ而シテ和蘭國政府ハ米、獨、佛、伊其ノ他數多ノ國トノ間ニ相踵イデ此ノ種ノ條約ヲ締結シ尙他國トノ間ニモ頻リニ斯カル條約ノ成立ヲ計畫シ我國ニ對シテハ大正十四年之ガ締結ヲ提唱シ爾來熱心ニ其ノ成立ヲ希望セルニ由リ帝國政府ハ之ニ應諾

シテ其ノ交渉ヲ開始シ商議ノ結果去ル昭和八年四月ヲ以テ妥結ニ達シ本案ノ條約及署名議定書ヲ作成シ同月十九日和蘭國「ヘーグ」ニ於テ兩國全權委員ノ署名ヲ了シタリ

本條約ハ前文及末文ノ外本文二十五條ヨリ成リ別ニ署名議定書一通ヲ伴フ今條約本文ノ要旨ヲ摘示スレバ次ノ如シ

(一)日蘭兩國間ニ通常ノ外交手續ニ依リ相當ノ期間内ニ解決セラレザル紛争ヲ生ジタルトキハ法律的事件ニ在リテハ兩國ノ合意ニ依リ其ノ他ノ事件ニ在リテハ兩國ノ合意又ハ其ノ一方ノ請求ニ依リ該紛争ヲ本條約ニ依リ設置セラルル常設調停委員會ニ付託ス(第一條)但シ兩國間ニ現ニ實施セラルル他ノ條約ニ定メタル手續ニ依リ解決スベキ紛争ニ付テハ其ノ條約ノ規定ニ從フ(第二條)又兩國ノ一方ノ内國法制ニ依リ其ノ國ノ裁判所ノ管轄ニ屬スベキ紛争ハ該裁判所ノ判決アリタル後ニ非ザレバ之ヲ本條約ニ定ムル手續ニ依リ處理スルコトヲ得ザルモノトス(第十條)

(二)法律的事件特ニ本條約其ノ他兩國間ニ實施セラルル條約ノ解釋ニ關スル紛争ニシテ常設調停委員會ニ付託セラレザルカ又ハ之ニ付託セラレタルモ其ノ報告ノ作成後三月

協同シテ之ヲ任命スベキモノトシ(第四條)裁判官ニ關員ヲ生ジタルトキハ右同様ノ手續ニ依リ成ルベク速ニ之ヲ補充スベキモノトス(第五條)

(四)紛争ヲ仲裁裁判ニ付託シタルトキハ兩國ハ特別取極ヲ以テ紛争ノ目的及準據手續ヲ定ム若シ特別取極ニ別段ノ定ナキトキハ仲裁手續ハ前記「ヘーグ」條約ノ規定ニ依リ而シテ仲裁裁判所ニ於テハ兩國間ニ別段ノ了解ナキ限り兩國間ニ實施中ノ一般又ハ特別ノ條約及之ニ由來スル法の規則、法トシテ認メラレタル國際慣習、文明國ニ依リテ認メラレタル法的一般原則竝ニ權威アル學說及判例ニ基キテ決定ヲ爲スベク之ニ對スル再審ノ請求ハ兩國間ニ反對ノ取極ナキ限り仲裁裁判所ノ定ムル期間内ニ限り前記「ヘーグ」條約ノ規定ニ從ヒ受理セラルベキモノトス(第六條乃至第九條)

(五)常設調停委員會ハ本條約ノ批准書交換後成ルベク速ニ之ヲ設置スルコトヲ要ス同委員會ハ五名ノ委員ヲ以テ之ヲ構成シ内二名ハ兩國ガ各々自國民中ヨリ之ヲ任命シ議長及他ノ二名ハ兩國ノ合意ヲ以テ各別ノ第三國民中ヨリ之ヲ指名スベク委員ノ任期ハ五年トシ重任ヲ妨ゲズ關員ヲ

内ニ解決セラレザルモノハ兩國合意ノ特別取極ヲ以テ之ヲ常設國際司法裁判所規程ニ依リ設置セラレタル同裁判所又ハ本條約ニ依リ設置セラルル仲裁裁判所ニ付託スベク兩國ノ一方ガ之ヲ提議シタル時ヨリ三月内ニ右兩裁判所ノ孰レヲ採ルベキカニ關シ兩國ノ意見一致セザルトキ又ハ仲裁裁判所ニ付託スルコトニ意見一致シタルモ同裁判所ガ其ノ設置ノ請求ノ時ヨリ五月内ニ設置セラレザルトキハ右同様ノ手續ニ依リテ該紛争ヲ常設國際司法裁判所ニ付託ス常設國際司法裁判所ハ其ノ規程ニ定メタル條件及手續ニ從ヒ、仲裁裁判所ハ國際紛争ノ平和的處理ニ關スル「ヘーグ」條約ニ定メタル條件及手續ニ從ヒ之ヲ裁判ス(第三條及第二十三條)

(三)仲裁裁判所ハ兩國間ニ別段ノ了解ナキ限り五名ノ裁判官ヲ以テ之ヲ構成シ内二名ハ兩國ガ各々自國民中ヨリ之ヲ任命シ裁判長及他ノ二名ハ兩國ノ合意ヲ以テ各別ノ第三國民中ヨリ之ヲ選定スベク兩國ノ一方ガ裁判所ノ設置ヲ請求シタル時ヨリ三月内ニ裁判官ノ任命ナキトキハ兩國ノ合意ヲ以テ第三國ヲ選定シ之ニ其ノ任命ヲ委嘱スベク其ノ合意成立セザルトキハ兩國ガ各別ニ指定スル二國ガ

生ジタルトキハ右同様ノ手續ニ依リ三月以内ニ之ヲ補充スベキモノトス兩國ノ合意ニ依リ委員ノ任命ガ本條約ノ批准書交換後六月以内ニ行ハレザルトキ又ハ其ノ關員ノ補充ガ三月以内ニ行ハレザルトキハ兩國間ニ別段ノ了解ナキ限り兩國ノ合意又ハ其ノ一方ノ請求ニ依リ常設國際司法裁判所長之ヲ指名スベク同所長ニ故障アルカ又ハ同所長ガ兩國ノ一方ノ國民ナルトキハ斯カル事故ナキ次長又ハ上席裁判官之ヲ指名スベキモノトス(第十一條及第十二條)

(六)常設調停委員會ニ紛争ヲ付託スルニハ紛争ノ目的ヲ約述シ且調停ニ達スルニ適當ナル措置ヲ執ルベキ旨ノ要請ヲ記載シタル請求書ヲ議長ニ提出スベク兩國ノ一方ヨリ此ノ請求ヲ提出シタルトキハ該國ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ他方ニ通告スベキモノトス(第十三條)

常設調停委員會ハ係争問題ヲ明ニシ兩國ヲ調停スルニ努ムルコトヲ任務トシ事件ノ審理ヲ遂ゲタル後其ノ適當ト認ムル和解條件ヲ兩國ニ呈示シ必要アルトキハ兩國ニ其ノ意見ヲ開陳セシム該委員會ハ事件受理後遅クトモ二月内ニ其ノ事務ヲ開始シ通例六月内ニ之ヲ終了シ報告書ヲ

作成シテ之ヲ兩國ニ交付ス但シ兩國ハ委員會ノ判斷ニ依リ羈束セラルルコトナシ（第十四條）

(七)常設調停委員會ノ手續ハ對審的トシ其ノ他反對ノ定ナキ限り同委員會ニ於テ之ヲ決定スベク其ノ審査ニ付テハ通例前記「ヘーグ」條約中國際審査委員會ニ關スル規定ニ從フベキモノトス（第十五條）

(八)常設調停委員會ハ事件受理後成ルベク速ニ議長之ヲ招集シ其ノ會合ノ地及日ハ兩國間ニ反對ノ合意ナキ限り議長之ヲ定ム（第十六條）

(九)常設調停委員會ノ事業ハ兩國ノ同意アルニ非ザレバ之ヲ公開セズ其ノ事業ノ結果ハ兩國間ノ協議ニ依ルニ非ザレバ之ヲ公表セザルモノトス（第十七條）

(十)兩國ハ各々常設調停委員會ニ代理人、輔佐人及専門家ヲ出頭セシメ且證人ノ訊問ヲ請求スルコトヲ得ベク同委員會ハ此等ノ者及委員會ガ本國政府ノ同意ヲ得テ召喚シタル者ニ口頭説明ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス（第十八條）

(十一)常設調停委員會ハ紛争ノ實體ニ關シテハ全委員ガ正當ニ招集セラレ且兩國ノ共同選任ニ係ル委員ノ全員ガ出席スルニ非ザレバ決定ヲ爲スコトヲ得ズ同委員會ノ決定ハ原

則トシテ總テ表決ノ過半数ニ依ル（第十九條）

(十二)兩國ハ常設調停委員會ニ自國ノ權限アル官憲ノ援助ヲ與ヘ有用ナル資料ヲ供給シ同委員會ガ自國領域内ニ於テ證人又ハ鑑定人ノ訊問及臨檢ヲ爲スニ必要ナル措置ヲ執リ其ノ他同委員會ノ事業ヲ容易ナラシムベキコトヲ約ス（第二十條）

(十三)常設調停委員會ノ委員ハ其ノ事業ノ繼續中兩國ノ合意ニ依リ決定セラレタル額ノ手當ヲ受クベク兩國ハ右手當其ノ他同委員會ノ費用ヲ均等ニ分擔スルモノトス（第二十一條）

(十四)兩國ハ仲裁裁判所及常設國際司法裁判所ノ決定ヲ誠實ニ執行スベク又事件ノ繫屬中ハ常設調停委員會ノ提案ノ受諾又ハ仲裁裁判所若ハ常設國際司法裁判所ノ決定ノ執行ノ妨ト爲ルベキ措置ヲ執ラザルコトヲ約ス仲裁裁判所及常設國際司法裁判所ハ假措置ヲ命ズルコトヲ得常設調停委員會モ亦之ヲ提案スルコトヲ得ルモノトス（第二十二條）

(十五)本條約ハ批准ヲ要シ批准書ハ成ルベク速ニ「ヘーグ」ニ於テ之ヲ交換スベク（第二十四條）本條約ハ批准書交換ノ時ヨリ效力ヲ生ジ五年間存續スベク此ノ期間満了ノ六

月前ニ廢棄ノ通告ナキトキハ更ニ五年間更新セラレタルモノトシ爾後之ト同様トシ本條約失效ノ際繫屬中ノ事件アルトキハ其ノ完了ニ至ル迄手續ヲ續行スベキモノトス（第二十五條）

署名議定書ハ日蘭兩國全權委員ガ本條約ノ署名ニ當リ(一)本條約ハ兩國間ノ紛争ニシテ第三國ノ利益ニ直接ノ關係ナキモノノミニ適用セラレベキコト(二)日本國ノ國際聯盟脫退ニ因リ常設國際司法裁判所ニ對スル日本國ノ法律的地位ニ變化ヲ生ズルトキハ兩國ハ日本國ノ請求ニ依リ本條約中同裁判所ニ關スル規定ヲ變更スルノ要否ヲ審査スル爲メ商議ヲ開始スベク此ノ商議中ハ現ニ同裁判所ニ繫屬中ノ事件ヲ處理スルノ外右規定ノ適用ヲ停止スベキコトニ付意見一致シタル旨ヲ宣言シタルモノナリ

按ズルニ本件ノ條約ハ日蘭兩國ノ友好關係ヲ一層鞏固ナラシムルニ資スル爲メ兩國間ニ生ズルコトアルベキ紛争ニシテ通常ノ外交手段ニ依リ相當ノ期間内ニ解決シ難キモノハ成ルベク特殊ノ國際機關ニ付託シテ平和的ニ之ヲ解決セムトスルノ目的ニ出ヅルモノニシテ其ノ趣旨ニ於テ固ヨリ不可ナク其ノ條項ハ概ネ範ヲ同種ノ既成條約ニ取リタルモノ

ニシテ條約及署名議定書トモ特ニ非議スベキ廉ヲ認メズ而

シテ曩ニ我が外務當局ハ客年六月日本對蘭領印度ノ貿易調整ノ目的ヲ以テ開始シタル日蘭會商ノ經過ヲ見ル爲メ姑ク本件條約ノ批准ヲ留保スルヲ得策トスル旨ヲ陳述シタルニ由リ一時審査委員會ノ審議ヲ中止シタルモ爾後該會商ハ其ノ開始前ニ存セル相互ノ誤解ヲ除去シ兩國間ノ通商經濟狀態ノ改善ニ資スル所アリタル程度ニ於テ一旦終了シ一面和蘭本國政府ニ於テハ頻リニ本件條約ノ批准書交換ヲ即行セムコトヲ希望スルアリ我が當局ハ今後右日蘭會商ヲ我方ニ有利ニ展開スル爲メニモ寧ロ此ノ際右希望ニ副フヲ妥當トスル旨ヲ言明シタリ仍テ審査委員會ニ於テハ外務當局ノ言明ヲ諒トシ帝國ニ於テモ此ノ際本件條約ヲ御批准アラセラルコト相當ナリト認メ從テ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十年五月三十一日

審査委員長

樞密顧問官男爵 富井 政章

審査委員

樞密顧問官 荒井賢太郎
 樞密顧問官 河合 操
 樞密顧問官子爵 石井菊次郎
 樞密顧問官 原 嘉道
 樞密顧問官 元田 肇
 樞密顧問官男爵 林 權助
 樞密院議長男爵 一木喜徳郎殿

(付記四)

樞密院本會議事録

昭和十年六月五日(水) 宮中東溜間ニ於テ

出席者

樞密院側

一木議長 平沼副議長

久保田、富井、黒田、櫻井、荒井、河合、鈴木(貫)、
 石井、有馬、原、窪田、元田、鈴木(莊)、石塚、坂
 本、石渡、清水、藤澤、林各顧問官(金子、石黒、石
 原、栗野各顧問官缺席)

閣員

岡田首相、廣田外相、兒玉拓相、小原法相
 政府側説明員

(外務省)

栗山條約局長、來栖通商局長、小林條約局第一課長、
 松本同第二課長、佐藤官補

(法制局)

金森長官、佐藤參事官

午前十時十三分 陛下臨御アラセラル

一木議長 「之ヨリ會議ヲ開キマス、先ツ日本國和蘭國間
 司法的解決、仲裁裁判及調停條約御批准ノ件ヲ議題ニ供
 シマス、先例ニ依リ第一讀會、朗讀ヲ省略致シマス、審
 査委員長審査報告」

富井顧問官 「大體別添審査報告ニ依リ報告ヲナセルカ署
 名議定書ニ關シ次ノ如ク附言セリ」

署名議定書ニ付テハ説明ヲ補足スル要アリ
 抑々本議定書作成ノ理由ハ一昨年本條約署名當時我國カ
 聯盟脫退ヲ通告シ我國ニ對スル一般ノ空氣宜シカラス依
 ツテ我方ハ此ノ空氣ヲ考慮ニ入レ本議定書ノ作成ヲ希望
 セルモノナリ

而シテ脫退ノ實現ニ依リ常設國際司法裁判所ニ對スル日
 本國ノ法律的地位ニ變化ヲ生スルコトアルヘキ場合トハ
 如何ナル場合ヲ謂フカト云フニ頗ル抽象的ニシテ其ノ意
 義充分ニ明カナラス審査委員會ニ於テ外務當局ノ説明ニ
 依リ其ノ意義略判明スルニ至レリ

第一ニ考ヘラルルハ聯盟脫退ニ依リ我國ハ國際司法裁判
 所ノ裁判官ノ選舉權ヲ有セサルコトナリ爲ニ種々不利
 ナル結果ヲ見ルヘシ例ヘハ我國ヨリ出ス裁判官候補者ノ
 當選ヲ見サル場合ヲ生スヘシ

固ヨリ所謂「法律的地位ノ變化」トハ右ノ場合ノミニ限
 ラサルモ本議定書第二ニ斯ル場合「日本國政府ノ請求ニ
 依リ、、商議ヲ開始スヘシ」トアル處右商議ノ請求權
 カ直ニ發動スルモノニアラスシテ其ノ場合四圍ノ事情ヨ
 リ判斷シテ右裁判所ノ規定ニ拘束サルコトノ不利ナル
 時ニ初メテ發動サスヘキモノニシテ本規定ノ働ク場合ヲ
 具體的ニ限定スルハ困難ナリ結局事實上ノ問題トシテ場
 合場合ニ依リ考慮スルヲ要ス」(以下審査報告ノ「按スル
 ニ云々」ニ續ク)

一木議長 「別ニ御發言モアリマセヌ故第二讀會以下ヲ省

略致シマシテ直ニ採決ニ移リマス、本案ニ賛成ノ各位ノ
 起立ヲ請ヒマス」

顧問官一同起立

一木議長 「本案ハ全會一致可決サレマシタ」

次イテ十時四十五分ヨリ「樺太廳官制中改正ノ件」ヲ議題
 ニ供シ之ヲ可決シ同十一時十分一木議長閉會ヲ宣シ 陛下
 入御アラセラル

227 昭和10年8月7日 在アフガニスタン北田公使より
 広田外務大臣宛(電報)

欧州諸国のアフガニスタンへの工作状況およ
 び同工作が我が方に及ぼす影響について

カブール 8月7日後発
 本 省 8月8日前着

第六九號(極秘)

當方面最近ノ情報ヲ綜合スルニ英國ハ日本牽制策トシテ專
 ラ米國ヲ利用シ蘇聯邦ニ對シテハ積極的ニ働キ掛ケサルカ
 如ク獨逸ノ當國ヘノ經濟的其ノ他ノ進出ハ昨今顯著トナリ

當國ヲ將來策源地（主ニ英國流ノ「インテリジエンスオフイス」ノ活動）ニ利用セントスルノ底意ヲモ漸ク認メラルル處同國ハ（脱）佛國ノ地位ヲ弱メル爲「エチオピア」問題ニテ二重政策ヲ採リ伊國ヲ聲援スル（脱？）通り將來ハ露國ト妥協シ（所謂「ウクライナ」問題ノ如キ眞相注意ヲ要ス）日本又ハ英國ニ當ラシメテ漁夫ノ利ヲ計ルノ俱モアルコト注意ヲ要ス獨蘇兩國ニハ既ニ當國ニテ隱密ニ邦品排斥宣傳ノ氣勢モ一部見受ケラル英國ハ對蘇對獨關係モ加ハリテ當國援助ヲ進メ今回小銃二萬挺ヲ年賦拂ニテ提供シ飛行機モ商談中ナリ

露ヲ除ク在歐米各大使、波へ暗送セリ

228 昭和10年8月8日 在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛（電報）

ブラジル連邦政府と日本人移民の二分制限法
除外問題につき公然と交渉することを暫く差し控える方針について

リオデジャネイロ 8月8日後発
本 省 8月9日前着

229 昭和10年8月8日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛

タイ国内務参議の外遊をめぐる同国の状況について

機密公第二五七號 （9月3日接受）

昭和十年八月八日

在暹羅國

特命全權公使 矢田部 保吉（印）

外務大臣 廣田 弘毅殿

暹羅國內務参議外遊ニ關スル件

外務参議ハ本月六日ノ外交團定例會見ニ於テ内務参議ルアング、プラディット（Luang Pradi Manudarm）カ近日中出發歐米諸國及日本ヲ歴訪スヘキ旨語リタルカ同日ノ議會ニ於テモ總理ハ一議員ノ質問ニ應シテ同参議ハ官命ヲ帶ヒテ諸般視察及諸外國トノ親交増進ノ目的ヲ以テ外遊スルコトナリ其ノ期間ハ七、八ヶ月ナリト發表シタリ（三月十三日新嘉坡發伊國船ニテ「トリエスト」ニ上陸ノ筈）右ニ關シ八日内務参議ノ本使ニ語リタル所ニ據レハ旅程ハ約六ヶ月ニシテ先ツ歐洲ニ赴キ瑞西國御滞在中ノ皇帝陛下

第一七七號

貴電第八九號ニ關シ

本件移民ノ二分制限除外問題ヲ此ノ際當方ヨリ直接外務省ニ持出ス事ハ頗ル機微ナル關係アル事往電第一六二號ノ通ニテ之カ爲却テ一般移民問題ノ交渉ニ惡影響ヲ齊^{（齊）}ス俱アリタル上本件ニ付テハ研究所側ニ於テ州政府ト交渉中ナル趣ナリシ處當方トシテハ暫ク其ノ結果ヲ待チ居リタル處最近同研究所主事ヨリ目下ハ州政情混亂シ居リ除外問題ニ付正式交渉ヲ爲ス時機ニ非スト考ヘラルルニ付聯邦政府トノ交渉モ暫ク之ヲ見合シ吳ルル様願出アリ尙從來ノ「コンセツション」契約ニ代ルヘキ新契約案（既ニ州統領ノ内諾ヲ得居ル由）中ニハ移民入國ノ數的義務ニ關スル規程ヲ除去シ居ル趣ニモ有之此ノ際冒頭貴電御訓示ノ通本件除外問題ニ關シ當方ヨリ聯邦政府ト公然交渉スル事ハ一般移民問題ニ與フル影響ヲモ顧念スル要アリ旁不取敢之ヲ差控ヘル事ト致度右御含ヲ請フ

哥倫比亞へ轉電シ管下各領事へ暗送セリ

ニモ拜謁シ英佛伊獨其ノ他ノ條約國ヲ歴訪ノ上更ニ米國ヲ經テ日本ヲモ訪問ノ筈ノ由ニテ日本訪問ハ十二月又ハ一月ノ交トナルヘク其用務ハ主トシテ銀行業務及土木事業ノ視察ニアリ同時ニ岡田首相廣田外相ノ外商工、農林、大藏等ノ各大臣ニモ面會シタク出來得ヘクハ軍部兩大臣トモ面會ノ機會ヲ得タシトノコトナリキ

今次内務参議ノ外遊ニ付テハ其發表ノ餘リニ唐突ナリシノミナラス偶々右發表ノ兩三日前ニ盤谷駐屯軍隊ノ一部ニアリテ下士官級ノ陰謀關係者十數名逮捕セラレタル事件（別報）アリシカ爲メ其ノ眞相ニ關シ兎角ノ風評アリ尤モ當館ニ於テ接觸シタル二三ノ官邊有力者ノ談ニ據ルモ又直接同参議ニ接觸シテ得タル印象ニ據ルモ斯ル風評ニ確カナル根據アルヘシトハ考ヘラレス、参議自身ハ自分外遊ノ計畫ハ最近ノコトニアラス唯出發間際ニ及フマテ其ノ發表ヲ差控ヘタルニ過キスト語リ居リ、又六日夜外務省顧問プリンス、ヴァンヴァイディヤモ同参議ハ豫テ自ラ諸國ヲ歴訪シテ政府當局及有力政治家等トノパーソナルコンタクトニ依リテ彼此親交ニ資センコトヲ希望シ居リ自分モ大ニ其ノ舉ニ贊成シ居リシナリト本使ニ語リタリ

内務参議ル**アング**、**プラディト**^(マ)ハ佛國留學出身ニシテ年齒三十ヲ超ユルコト僅ニ三四ニ過キス佛國ヨリ歸朝後ハ司法省法律學校教授タリシカ昭和七年六月ノ政治革命ハ彼カ少壯文官派ノ首領トナリテ劃策シタルモノニシテ革命舉事ノ宣言モ將又臨時憲法ノ草案モ彼自身ノ起草ニ係リ、**ピヤ**、**パホン**ヲ中心トスル少壯軍人派カ軍隊ヲ把握シテ専ラ治安維持ノ責ニ任シタルニ對シテ彼ハ主トシテ革命政府ノ組織、憲法ノ起草等ノ如キ舊勢力打倒後ニ於ケル諸般ノ革新方策樹立ヲ司リテ新政府ノ中心タル人物タリシナリ從テ彼カ皇帝及皇族其他舊勢力一派ヨリ最モ敵視セラレ其ノ憎惡ノ中心トナリタルハ自然ノ數ナリシカ彼ハ又舊勢力ヲ維持シテ之ヲ操縱スルコトニ依リテ其ノ在來ノ勢力地位ヲ維持スルヲ必要トスル英佛諸國人ノ最モ白眼視スル所トモナリツツアリタリ、然ルニ七年十二月確定憲法發布ノ後内外諸般ノ政策ヲ編ミ出スヘキ時期ニ入ルニ及ヒテ政府部内ニハ漸次反動的色彩濃厚トナリ來リ其ノ極翌八年四月一日ノ政變トナリテ議會無期停會憲法一部停止トナリタルコトハ當時報告ノ通ナルカ右政變カ革命ノ中心人物ニシテ皇族一派憎惡ノ的タル**ルアング**、**プラディト**^(マ)驅逐ヲ主眼トシ之レカ

爲ニ彼ヲ以テ共產主義者ナリト宣傳シテ彼ヲ國外ニ放逐セルコト亦當時報告ノ通ニシテ而シテ在留歐米人等ハ拍手シテ此ノ政變ヲ迎ヘタリシナリ、彼ハ四月中旬出發歐洲ニ赴キ主トシテ佛國ニ滞在シタルカ其出發後二ヶ月餘ニシテ八年六月二十日ノ政變勃發シ反動勢力顛覆シテ再ヒ革命派中心ノ現**パホン**内閣ノ確立スルト共ニ**ルアング**、**プラディト**召還ノ議決セラレタリ、彼ハ其年九月歸國シテ間モナク無任所参議トナリ久シカラスシテ内務参議ノ任ニ就キ今日ニ及ヒ居レリ

翻テ稽フルニ歐米諸國殊ニ英佛兩國カ革命以來舊皇族勢力ノ回復ヲ希望シ來リタルヘキハ疑無キ所ナルカ時局ノ推移ハ彼等ノ期待ニ背キテ革命新政府ノ基礎ハ漸次強固トナリ殊ニ**プラチャディボツク**皇帝ノ退位、**アナンタ**幼帝ノ即位、現攝政會議ノ任命等最近ノ動向ハ是等諸國ヲシテ最早舊皇族勢力回復ノ希望ナキヲ曉ラシムルニ至リタリト想像セラ

ルル次等ナルカ同時ニ暹羅現政府トシテハ此ノ秋ニ際シテ歐米諸國殊ニ英佛二國カ現政權ニ對シテ有スルナルヘキ諸般ノ誤解ヲ釋クコトノ必要ナルヲ痛感シ居レルモノノ如ク察セラル、蓋シ最近暹羅國上下ノ間ニ白人勢力ノ羈絆ヲ脱

シテ名實相副フ獨立ノ實ヲ擧ケントスル要望勃興シツツアルハ事實ナリト雖モ同時ニ英佛兩國ノ今尙ホ暹羅ニ於テ有スル勢力ハ到底一朝一夕ニシテ一掃セラレ得ヘキモノニ非サルコトモ亦識者ノ認ムル所ニシテ急激ニシテ無思慮ナル排歐米政策ノ却テ暹羅ノ社稷ニ禍スルモノアルヘキコト疑ナシトセラレツツアルモノノ如ク此ノ思想ハ恐ラクハ暹羅現政府當局ノ外交最高政策ノ基調ヲナシ居ルモノト推測セラレ而シテ此ノ傾向ハ皇族ノ列ニ在リナカラ革命前ヨリ元老皇族ノ間ニ容レラレサリシ**プリンス**、**ヴァンヴアイディ**ヤカ現政府國務院ノ政治顧問トシテ勢力ヲ伸ハスニ伴ヒ次第ニ顯著トナルニ至リツツアルカ如ク此ノ間ニ於テ最早舊勢力挽回ノ希望ナキコトヲ曉得シタル英國カ新勢力懷柔ノ爲メ何等工作ヲ施シツツアルヘキコトモ想像ノ餘地十分ニ存スル次第ナリ、兎モ角暹羅トシテハ新政府ノ立場ト其ノ内外諸政策ニ對シテ先進諸國殊ニ英佛兩國ノ理解ト同情ヲ得ルコトヲ以テ其ノ急務トナセルモノノ如ク觀察セラルル次第ナル處更ニ**ルアング**、**プラディト**カ曾テ共產主義者ナリト舊勢力ニ依リテ宣傳セラレタルコト既述ノ如クニシテ暹羅政府有力者トシテ彼ノ存在ハ歐米諸國ヲシテ暹羅國

現政府ノ今後ノ動向ニ對シテ多大ノ疑惑ヲ懷カシムル原因タリシコトハ疑ナキ所ナルヲ以テ既述**プリンス**、**ヴァンヴアイノ**言ヘルカ如ク此際彼自身主要諸國ヲ歴遊シ重要人物ト親シク接觸シテ一種ノ自己辨明ヲ爲スコトモ亦必要且ツ有効ト爲シ居レルモノト察セラル

以上ハ當國內政及國際關係ノ情勢ヨリスル一種ノ所感ニ過キス参議ノ使命ニ關シ何人モ斯ル具體的説明ヲ下シタルモノアルニハアラサレトモ内務参議今次ノ外遊力最近ノ陰謀事件ト關係ナキモノナル以上ハ其ノ使命ニ付テハ以上ノ如ク之ヲ觀測スル外ナシト思考シ居ル次第ナリ、尙ホ同参議ハ内務参議トシテ在官ノママ外遊スルモノナリ

右御参考マテ申進ス

本信寫送付先

在英、佛、伊、獨、白、米、支各大使

在瑞西、瑞典、蘭各公使

在瑞西國際會議帝國事務局長

在新嘉坡總領事

230

昭和10年8月27日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

調停委員会構成など日タイ仲裁裁判条約原案 に関する外交顧問との懇談について

バンコク 8月27日後発
本 省 8月27日後着

第二〇八號

日暹調停仲裁條約ニ關シ⁽¹⁾

二十四日外務省顧問「プリンスバンバイ」ト會見貴電第七二號ノ趣旨ヲ體シ懇談ノ經過左ノ通

一 原案第二條調停委員會ノ構成ニ關シ先方ハ依然(一)調停ノ當然ノ性質トシテ委員中ニ中立者ヲ加フルヲ要ス(二)日本案ニテハ委員會ハ畢竟外交手段ノ延長ニ過キス解決案ニ到達スルコト不可能ナリ(三)將來兩國間ニ紛爭發生ヲ豫見セサルコト暹羅政府モ勿論日本側ト同様ナルモ苟モ條約ニ依リ調停委員會ヲ設ケントスル以上ハ解決案ニ到達不可能ナルコト何人ニモ一目瞭然タルカ如キモノハ寧ロ初メヨリ之ヲ設ケサルニ如カストノ感ヲ與フヘク議會等ニ對シテモ説明ノ途無シ(四)殊ニ日本力最近締結セル日蘭條

約ハ第三國人ノ委員ヲ加ヘ居ルコト故ニ尙更然リ兩國間ノコトハ兩國ニテトノ主義ハ尤モ千萬ナルモ暹羅トシテハ兩隣國トノ關係ヲモ特ニ考慮スルヲ要スト主張シテ下

ラス我方原案ノ儘ニテハ妥結困難ト思料セラレタリ

二⁽²⁾ 原案第二條第二項、第六條及第八條前段(貴電第七二號ノ二、三及四ノイ)ノ代案先方異議無ク受諾セリ

三 原案第八條ニ關シ非法律的紛爭ヲモ合意ニ依リ仲裁裁判ニ附託シ得ルコトスルコト並ニ同條中特別取極ニ「タイムリミット」ヲ附シテ結局仲裁裁判ヲ義務的トスルノ效果アラシメントスル點ニ付先方ハ其ノ小國タルノ地位ニ鑑ミ尙強硬ニ主張シタルモ斯クテハ條約成立絶望ナル旨ヲ説キ結局其ノ主張ヲ「ドロップ」セシメタリ

四 原案第九條ニ關シ附託裁判所ハ條約ニ於テ確定シ置キタシトノ先方ノ主張ニ付兩國間(時)ニ紛爭ヲ仲裁裁判ニ附託方合意一旦成立セル以上ハ裁判所ノ構成ニ關シテ兩國一致シ得サルカ如キコトハ想像シ得ス從テ特ニ附託裁判所ヲ確定シ置クコトニ格別ノ實益無シトノ旨ヲ以テ原案受諾ヲ求メタルモ先方ハ之亦其ノ小國タル地位ニ鑑ミ伊「エ」紛爭等ヲ引例シテ仲裁裁判附託ヲ事實不可能ナ

231

昭和10年8月27日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

五 原案第一二條第二項 as set as ノ文句ニ付如何(二モ)

條約規定ヲ無力ニ見エシメテ甚タ面白カラス日蘭條約ニハ此ノ文句無シ之ニ從ヒ度シ暹羅トシテハ此ノ點ニ付テモ將來ニ於ケル兩隣國トノ關係ヲ顧念シ置クコト必要ナリト主張セリ

ラシムヘキ困難ヲ出來得ル限り極限スルヲ要スヘク意見

ヲ強硬ニ主張シ第八條ノ「タイムリミット」ヲ撤回スル以上切メテ裁判所タケハ確定シ置キ度シト要望セリ依テ試ミニ本使限り當座ノ思付トシテ原案第九條ハ第一項トシテ其ノ儘存置シ第二項トシテ例ヘハ「紛爭ヲ仲裁裁判ニ附託スルノ合意成立ノ時ヨリ一定期間内ニ第一項ノ規定ニ從フ仲裁裁判所ノ構成ニ付合意成立スル能ハサル時ハ本條約第八條ノ目的ノ爲ニスル仲裁裁判所トシテ海牙仲裁裁判所ヲ選擇セラルヘシ」ト云フカ如キ規定ヲ設クルハ如何ト質シタルニ夫レナラハ満足シ得ヘシト答ヘタリ

タイ側への東亜民族としての共同意識の強要 は禍を惹起すべく調停委員会第三國人問題な どにつき譲歩方請訓

別電一 八月二十七日発在タイ矢田部公使より広田外務

大臣宛第二一〇号

仲裁裁判付託に関する譲歩案

二 八月二十七日発在タイ矢田部公使より広田外務

大臣宛第二一一号

条文中の字句挿入について

バンコク 8月27日後発
本 省 8月27日後着

第二〇九號

往電第二〇八號ニ關シ⁽¹⁾

一 調停委員會ノ構成ニ關スル原案ノ御趣意ハ豫テヨリ本使ニ於テモ了解シ居レルカ故ニ貫徹方極力主張シ來レルモ暹羅ハ前電ノ通り接壤國タル英佛兩國トノ關係ヲ顧念スルカ故ニ容易ニ我主張ヲ容レス最近當國朝野力其ノ東洋ノ獨立國タル地位ニ醒メツツアルハ事實ナリト雖モ未タ我方ノ要望スルカ如ク眞ニ東亞民族トシテノ共同意識ニ

立脚スル大道の見地ヨリ全然歐米人ヲ排シテ我國トノミ
握手セントスル程度ニハ至リ居ラス右ハ當國現在ノ國力
及其ノ困難ナル國際關係等ニ鑑ミ寔ニ無理モナキ所ニシ
テ我國トシテモ對暹政策上此ノ事情ハ深く注意ヲ要ス此
ノ際餘リ執拗ニ歐米人ノ排斥ヲ求ムルノ主張ヲ以テ之ニ
臨ムハ却テ禍ヲ一般關係ニ及ホスコトナキヤヲ惧ル蓋シ
斯ル主張ハ當然歐米人側ニモ漏ルルニ至ルコト疑ナク左
ナキタニ最近日本力暹羅ヲ示唆シテ歐米排斥政策ヲ執ラ
シメツツアリトノ憶説行ハレツツアル際我ヨリ之ヲ立證
スルノ結果トモ相成ルヘク畢竟我方ノ理想タル東亞民族
主義ヲ實行ニ移スヘク當國ノ實情ハ未タ充分ニハ熟シ居
ラサルモノナルヲ御了承相願ヒタシ

就テハ我方トシテハ勿論問題トナラサレトモ暹羅側トシ
テハ初メヨリ最も重要視セル第八條中ノ二點（往電第二
〇八號ノ三）ヲ撤回シタルコトニモアリ此ノ際本條約ヲ
成立セシムルコトノ大局上ノ利益ニ顧ミ調停委員會ニ第
三國人ヲ加フルコトヲ承諾アルコト然ルヘシト存ス尤モ
其ノ場合兩國機關各二名宛委員長ヲ第三國人トスル時ハ
委員會ノ意見ハ全ク唯一人ノ第三國人ニ依ツテ左右セラ

ルル結果トナルヘキニ付日蘭條約ノ例ニ依リ締約國人各
一名ノ外他ノ二名及委員長ハ各國籍ヲ異ニスル第三國人
トスルヲ可トスヘシ御考慮ヲ請フ

ニ、第九條ニ關シテハ先方ハ本使ノ「サゼツシヨン」ニ同意
シ居リ（往電第二〇八號ノ四）該趣旨ニテ妥結シタシ然
ラサレハ先方ハ再ヒ「タイムリミット」ノ問題ヲ蒸返シ
來リ條約成立ノ希望ハ根柢ヨリ覆ヘサルコトトナルヘ
シ別電第二一〇號ノ試案（此ノ試案其ノ物ハ先方ヘ示シ
アラス）ニ付御考慮ヲ請フ

三、第十二條ニ付不利ナル影響ヲ與フルヤ否ヤハ畢竟當事國
自身ノ判定ニ依ルノ外無キ儀ナルヘケレハ特ニ問題ノ文
句ヲ止メテ條約ヲシテ力弱キモノノ外觀アラシムルハ如
何カト存ス本條約力將來東洋諸國間ニ締結セラルヘキ同
種條約ノ「モデル」トナルヘシトノ我方ノ主張ニ對シテ
ハ先方トシテハ夫レ故ニコソ暹羅トシテハ將來東洋ト限
ラス諸外國トノ同種條約ヲ締結スル場合ヲ慮リ之力削除
ヲ要望スト主張スルモノナリ御考慮ヲ請フ

要スルニ今日迄ノ双方意見ノ一致ヲ見ルヲ得サルハ以上ノ
三點ニ歸着シタリ至急何分ノ御電訓ヲ請フ

（別電一）

バンコク 8月27日後発
本 省 8月28日前着

第二一〇號

In case the Parties fail to reach an agreement
in accordance with the provisions of the foregoing
paragraph, in regard to the constitution of the Arbitral
Tribunal within 3 months since they agreed to refer
the dispute to arbitration, the Permanent Court of
Arbitration at The Hague established by the Hague
convention of October 18, 1907, for the Pacific
settlement of international disputes, shall then be
chosen, at the request of either Party, for the purpose
of Article 8 of the present treaty.

（別電二）

バンコク 8月27日後発
本 省 8月27日後着

第二一一號

往電第二〇九號ニ關シ

第九條ニ第二項ヲ新設スルトセハ第八條後段 to an arbitral
tribunal which 卜 under decide shall the conditions ト
ノ間ニ左ノ通挿入スルコ然ルヘキカト存ス爲念

under be constituted in each particular case in the
manner herein after provided and which

232 昭和10年8月31日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛（電報）

タイ国外交顧問より調停委員の欠員補充規定
の追加要請について

バンコク 8月31日後発
本 省 8月31日後着

第二一五號

往電第二〇八號ニ關シ

外務省顧問「バンバイ」ヨリ書面ヲ以テ當方ヨリ呈示ノ
本條約草案第二條調停委員會ノ構成ニ關スル規定中缺員補
充ニ關シ何等規定シ居ラサルコトヲ氣付ケル處草案ハ來月
早々閣議ニ附議シ度ニ付右補缺ニ關スル追加草案呈示アリ

度旨申越セリ

然ル處此ノ種規定ハ日蘭條約中ニモ存スルコトニモアレハ先方申出ニ應シ同條約第十一條第三項ノ如キ規定ヲ前記草案第二條ノ末尾ニ追加スルコト致度シ貴見御垂示ヲ請フ

233 昭和10年9月18日 在ブラジル沢田大使より
広田外務大臣宛(電報)

サンパウロ州の労働力不足問題は日本人移民に触れずに解決を図るとの情報について

リオデジャネイロ 9月18日後発
本 省 9月19日後着

第二〇一號
往電第一九七號ニ關シ

聖州關係要路者全部當地ニ集マリ協議ヲ續ケ居リタルカ謀報者ノ報告ニ依レハ大統領ハ移民問題當面ノ解決ヲ主トシテ聖州限リノ問題トシテ解決ヲ急カシムルコトトシ十三日ノ會合ニ於テ同州政府ニ於テ渡航費ヲ負擔シ且ツ如何ナル手段ニ依リ如何ナル地方ヨリスルヲ問ハス至急多數ノ農業

觸レスシテ解決セント希望シ居ルヤニ推定セラル右ハ當方將來ノ工作上考慮ニ止メ置カサルヘカラサルコトト思考セララル聖市ヘ轉電シ管下各領事ヘ暗送セリ

234 昭和10年10月15日 在独国井上臨時代理大使より
広田外務大臣宛

訪独した我が方代議士等に対し国粹社会党幹部より我が国に対する好意表明について

普通第四〇〇號 (12月2日接受)

昭和十年十月十五日

在獨

臨時代理大使 井上 庚二郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

國粹社會黨幹部ノ日本觀ニ關スル件

獨乙國粹社會黨幹部カ我國ノ國體、社會生活、宗教觀等ニ多大ノ興味ヲ有スルハ從來各種ノ機會ニ於テ認メラレタル所ナルカ先般衆議院議員岡田忠彦氏カ伯林滯在中農業大臣「ダレー」氏宣傳大臣「ゲツベルス」氏國粹社會黨總務部長「ライ」氏ヲ訪問會談セル際ニモ此等諸氏ハ何レモ我國

移民招致策ヲ實施スルコトニ決シタル由ナルカ其ノ際日本移民ハ入伯後間モ無ク獨立スル爲努力不足ノ問題ヲ解決セストテ全然考慮ニ加ヘラレサリシ趣ニテ特ニ聖州要路者ノ一人ハ聖州ノ最高指導階級ハ日本移民ヲ歡迎シ居ラスト述ヘタル由ナリ(親日家トシテ知ラレ居ル「アルフレッド、エリス」スラ最近聖州議會ニ於ケル移民問題ノ演說ニ於テ日本人ハ植民ニシテ的確ニ言ヘハ移民ニアサルヲ以テ問題トナラスト述ヘ居レリ尙客年十二月二十四日附往信機密第二〇三號御參照)

越エテ十四日聖州政府ハ移民誘致ノ爲ニ萬「コントス」ノ特別支出ヲ州議會ニ要求シ他面農務長官ハ聖州努力不足問題ヲ解決スル爲外國移民一萬、伯國東北ニ在ル邦人四萬人ヲ聖州ニ移動セシムヘキ旨聲明セリ一方聯邦會議ニ於テ昨十七日「バルボーザ」ハ前顯往電所報法案說明演說ヲ續ケ移民條項ノ不當ヲ論シ日本移民ノ長所ニモ言及シ其ノ擁護論ヲ爲シタルカ排日議員之ヲ妨害シ特ニ聖州選出議員ハ右「バ」ノ演說ニ際シ一名ノミヲ殘シ全部議席ヲ去リ移民問題ニ關スル討論ヲ忌避スルヤノ印象ヲ與ヘタル由ナルカ如上事情ヲ綜合スルニ聖州ハ且下ノ努力不足問題ヲ日本移民ニ

體ノ尊嚴ニシテ社會生活ノ堅實ナルヲ賞シ居タルカ此等諸氏ノ談話ヲ綜合スルニ國事多端ノ折柄當國政治家ハ何レモ身ヲ以テ國家安寧ノタメ盡力セサルヘカラサル處日本ニ於テハ皇祖ヨリ歷代ノ天皇陛下カ常ニ民意ヲ以テ御心トシ給ヒ國民ト苦樂ヲ共ニシ給ヘル御態度ハ眞ニ當國指導者階級ノ範トスヘキモノナリトシ居リ農業大臣「ダレー」氏ノ如キハ社會生活ノ安定ハ極端ナル個人主義ニヨリ得ラルモノニ非スシテ日本ノ家族思想ノ如キモノヲ必要トストノ意見ヲ述ヘ國粹社會黨政府カ制定セル世襲農地法ハ右ノ考ヘニ基キ先ツ國家存續ノ基礎タル農民階級ニ個人主義ヲ排斥シ家族主義ヲ普及シ將來ハ此ノ思想ヲ一般社會生活ニモ及ホサントスル趣旨ナリト説明シ居レリ又「ライ」氏ハ獨乙今後ノ精神の改革ニ於テハ諸外國中日本以外ニ學フトコロナシト斷言シ居タルカ同人等從來ノ態度等ヨリ察スルニ此等ノ言辭ハ單ニ其場限リノ儀禮のナルモノトハ思ハレス個人主義的人生觀ノ行詰リヲ感シ國家中心主義的人生觀乃至世界觀ヘノ轉換ヲ試ミツアル國粹社會黨カ我カ國ノ如キ國體、社會生活、東洋の宗教觀、人生觀研究ニ興味ヲ有スルハ自然ノ傾向ト考ヘ得ヘシ

此點ニ關聯シ當國宗教政策ノ趨勢ヲ觀察スルニ累次報告ノ通り其根本問題ハ如何ニシテ「キリスト」教ヲ以テ國家中心主義ヲ根據付クルカニアリテ最近獨逸青年團指導者(Reichsjugendführer)カ「リンブルグ」ニ於ケル演説ニ於テ「吾人トシテハ「ヒットラー」ノタメ獨逸國家ノタメ働クコト即チ「キリスト」ノ意志ニ從フコトナリ」ト論シタルカ如キハ宗教政策ニ對スル方針ヲ如實ニ反映セルモノト認メ得ヘシ

尙星島代議士一行トノ會談ニ於テ同一行ノ質問ニ對シ「ヘス」ハ現下獨乙ニ於ケル一黨ノ議會コソ全國民ノ意思ヲ代表シ之ヲ實現スル最モ適當ナル制度ナルコト日本國民ニ對スル唯一ノ希望ハ日獨兩國國民共ニ「ボルシェヴィズム」阻止ノ使命ヲ有スルヲ自覺シ此點ニ於ケル兩國ノ協力ヲ徹底スルノ望マシキコトヲ強調シ居リタリ

右何等御參考迄ニ報告ス

235

昭和10年10月16日

広田外務大臣より
在タイ矢田部公使宛(電報)

經濟視察団派遣の大綱開示ならびにこれに對

するタイ国側の対応等観測方訓電

付記一 作成日不明、作成者不明

「暹羅ヲ中心トスル經濟使節ニ關スル第一回打
合會概要」

二 作成日不明、作成者不明

「暹羅ヲ中心トスル經濟使節ニ關スル第二回打
合會概要」

本省 10月16日後8時21分発

第一五三號

客年貴電第一三四號ニ關シ

今回日本商工會議所ノ主催ニ依リ更メテ暹羅へ經濟視察團ヲ派遣スルコトナリ右ニ關スル大体ノ方針トシテ

一視察團ノ目的ハ兩國間貿易ノ促進(特ニ片貿易ノ調整ニ重キヲ置ク)及資源開發ノ調査研究等ヲ行フ

二組織ハ純粹ナル經濟的ノモノトシ團長(三井安川雄之助ノ豫定)及團員ニハ有力實業家ヲ選ヒ場合ニヨリテハ専門家ヲモ配ス

三調査事項ニ付テハ客年貴電ノ次第ヲモ參酌ノ上貿易、金融、船舶(港灣ヲ含ム)農業、林業、鑛業其ノ他諸般ノ方

面ニ亘リ考究中ナリ

四派遣ノ時期ニ付テハ商工會議所側ハ十二月頃ヲ豫定シ居レルモ暹羅側ノ都合モアルヘキニ付貴見ヲ待チテ決スルコトニ一應關係省間ニ於テ打合ヲ遂ケタル次第ナル處其ノ後暹羅側ニ於ケル政情ノ變化等モアルヘク先方ニテ右ニ協力ヲ吝マサルノ態度ニ變化ナキヤモ懸念セラルルニ付右御確メノ上前記諸點ニ關スル貴見ト共ニ至急御同電アリタシ

(付記一)

暹羅ヲ中心トスル經濟使節ニ關スル第一回打合會概要

昭和十年十月十五日於拓務大臣官邸

出席者別紙ノ通

一、拓務局長挨拶

豫テ兒玉拓務大臣ハ海外拓殖事業進展ノ見地ヨリ南洋方面ニ經濟調査團ヲ派遣シタキ意嚮ヲ有セラレ外務大臣トモ協議中ナリシ處今回日本商工會議所主催ノ下ニ親善増進、經濟調査等ノ目的ヲ以テ暹羅ヲ中心トスル經濟使節派遣ノ計畫ガ企テラレ既ニ安川雄之助氏ヲ主席使節トスルコトニ決定シタル趣ナリ就テハ同使節ニ對スル官廳側

(欄外記入一)

トシテノ態度ヲ關係官廳間ニ於テ協議シ置クノ必要ヲ認メ本會合ヲ催シタル次第ナリ

暹羅へノ經濟使節派遣ニ付テハ昨年大阪ニ於テ計畫セラレ出發準備モ略々整ヒタル折柄關西風水害ノ爲中止トナリタル経緯モ有之今回ノ計畫進行ニ當リテハ右ノ事實ヲ十分考慮ニ入レオクノ要アリ尙右大阪ニ於ケル計畫中ニハ蘭印ヲモ加ヘアリタリ

拓務局長ヨリ

今回ノ使節中ニハ大阪、名古屋ヨリ夫々一人宛選定セラ
ル、趣ナリ

一、使節派遣ノ目的

親善増進ヲ第一義トシ第二義トシテ同地方ノ産業開發ニ協力シ且片貿易ノ調整ノ前提トモ致スベキ意味ニ於テ同地方ノ資源調査(經濟調査)ヲ行フモノトスルコト

二、訪問地方(暹羅以外ニ蘭印地方ヲ加フルヤ否ヤ)

蘭印ニ於ケル在留邦人、關係事業會社等ニ於テハ使節ノ來訪ヲ希望シ居ル様見受ケラレ且暹羅ニ使節ヲ派遣サレタルニ拘ラズ近接ノ蘭印ヲ除外スルハ却ツテ角ガ立ツ様ニモ感ゼラルルヲ以テ蘭印ヲモ訪問シ差支ナキニアラズ

(欄外記入二)

(欄外記入一)

一、遣暹使節ノ計畫ハ豫定通遂行スルノ方針ニ據ルコト而シテ之ガ遂行ニハ幾多ノ障碍アルヤモ知レザルモ之ガ實現

申合事項

要次ノ如キ申合ヲ爲シタリ

暹羅ノ政情、使節派遣ニ關スル對暹工作、對暹經濟關係、使節ノ構成、使節ノ出發時期、外部發表關係其ノ他ニ關シ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒタル後本打合會ノ結論トシテ大

宛回電(寫ヲ配付)ニ基キ暹羅ノ政情竝ニ外務省ノ意嚮ニ付詳細ナル説明アリ

入江拓務次官竝ニ高山拓務局長ヨリ簡單ナル挨拶アリタル後外務省簽原事務官ヨリ在暹羅矢田部公使發廣田外務大臣宛回電(寫ヲ配付)ニ基キ暹羅ノ政情竝ニ外務省ノ意嚮ニ付詳細ナル説明アリ

出席者別紙ノ通

昭和十年十月廿六日於拓務大臣官邸

暹羅ヲ中心トスル經濟使節ニ關スル第二回打合會概要

(付記一)

リ

ハ矢田部公使ノ回答ニヨルコトヲ要スル旨述ヘ置キタリ
本件當分絕對極秘トスルコトニ參會者一同ノ注意ヲ促シ置キタリ

(欄外記入四)

一、次回打合

矢田部公使ヨリノ回答ヲ待チ公使ノ意見ヲ基トシテ一應

トトナレリ

之亦前項同様外務省ヨリ矢田部公使ノ意見ヲ照會スルコトトナレリ

二、訪問時期

意見ヲ照會スルコトトナレリ

當トスルヤニ付至急外務省ヨリ暹羅駐劄^(附之)ノ矢田部公使ノ

(欄外記入三)

一、構成

ルコトトナレリ

ヤトノ意見ニ對シ外務省側ヨリハ正式ニ經濟使節トシテノ訪問ハ先方ニ疑念ヲ抱カシムル虞モアリ且日蘭會商トノ關係モアレバ蘭印ヘノ使節ノ正式訪問ハ慎重ナル考慮ヲ必要トスベク外務省トシテハ贊成シ難シ訪問スルトセバ私人ノ資格ヲ以テ各個ニツリーストシテ訪問スル方可ナルベシトノ意見アリ結局本件ハ外務省ニ於テ研究スルコトトナレリ

(別紙)

出席者

資源局 植村總務部長、厚東庶務課長

外務省 上村東亞局第一課長代理、吉田歐亞局第二課長、

簽原事務官(東亞局)

陸軍省 有末少佐(軍務局)

海軍省 太田軍務局第一課長、横山少佐(軍務局)

拓務省 高山拓務局長、川本事務官、三浦屬

(欄外記入二)

大坂側ニ適宜聯絡スルコトハ拓務側ニテ引受ケタリ

(欄外記入二)

片貿易調節ノ必要ナル所以ヲ充分力説シ置ケリ

(欄外記入三)

コノ點ハ外務側ノ考慮ニ一任セラレタキ旨ヲ述ヘ置キタリ

(欄外記入四)

使節ヲ派遣スルト否ト其ノ構成觀察事項派遣時期等一切ノ事項

(欄外記入二)

三、使節ノ出發時期ハ暹羅ノ內務參議來朝ノ際打合セノ上決定スルヲ適當トスベキモ大體昭和十一年二月頃ヲ目途トスルコト

四、團長ハ安川雄之助氏ト決定シ置キ其ノ他ノ團員ニ付テハ關係各廳竝ニ日本商工會議所協議ノ上選定スルコト

(副團長ニ付テモ拓務側ニテ非公式ニ物色シオキタシト述ヘ單ニ聞置キタリ)

五、本計畫ハ目下嚴秘ヲ要スルニ付外部發表ハ見合スコト必要アルトキハ各廳協議了解ノ上發表スルコト

六、本申合ノ趣旨ハ日本商工會議所首腦者竝ニ安川氏ニ傳ヘ置クコト

七、關係各廳打合會ハ今後引續キ隨時之ヲ開クコト尙次回會合ニハ外務省通商農林省ヲモ加フルコト

本件資金ハ民間ノ金ヲ拓務省ニテ使ハシテモラフコトニ了

解ツキタル次第ナル旨高山局長ヨリ列席者ニ内話セリ

(別紙)

出席者

資源局 厚東庶務課長

外務省 吉田歐亞局第二課長、笠原事務官

陸軍省 有末少佐

海軍省 横山少佐

商工省 徳永事務官

拓務省 入江次官、高山拓務局長、川本事務官、仁瓶技師、

三浦屬

(欄外記入一)

其ノ成否ニ対シテハ外務省トシテ責任ヲ負ヘサル旨念ヲ押シ置ケリ

(欄外記入二)

二以下ノ点ニ付テハ本件成否未定ナルヲ以テ協議尙早ト考フル
旨述ヘタルモ拓務側ニテモ関係者寄合ヒタル際一應ノ意見ヲ交
換シ置キタシト主張シ話合ヲ続ケタル次第ナリ

236

昭和10年10月22日 在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

タイの政治情勢に鑑み経済使節団派遣の時期
が遅れても可なる旨の見解報告

バンコク 10月22日前発

本省 10月22日後着

第二四〇號

貴電⁽¹⁾第一五三號ニ關シ(經濟視察團派遣ニ關スル件)

總理ハ久シク病氣ノ爲全ク政務ヲ離レ居リ歸任ノ期モ目下
判然タラス内務參議「ルアンプラデイト」ハ目下外遊中
ナル一方直接ノ關係者經濟及農務兩參議ニハ今日迄ノ經驗
ニ徴シ全幅ノ信賴ヲ措キ難ク殊ニ經濟參議ハ甚シク不評判
ニテ最近所管省ニ於テ成績不振ノ理由ニテ不信任案ヲ提出
セラレタル程ニテ目下政府部内ニテモ同參議ヲ持テ餘シ居
ル模様ナリ剩ヘ過日來國務院總理ハ轉地先ニテ暗殺セラレ
政府ハ之ヲ極秘ニ附セリトノ風説頻々流布セラルル等政情
客年往電第一三四號當時ニ比シ不安一段加ハリ居リ總理及
内務參議ノ本使ニ對スル當時ノ言明ヲ其ノ儘ニ援用スルモ
其ノ效ナク此ノ際新參無力ノ外務參議相手ニテハ事實有效

237

昭和10年11月11日 在アフガニスタン北田公使より
広田外務大臣宛(電報)

英ソを牽制し極東における我が方の地位を強
固にするためにもアフガニスタンとの親交強
化に努めるべき旨意見具申

ナル工作ハ出來ス今少シク政情安定シテ政府部内ニ適當ナ
ル空氣ノ作ラルルヲ待ツヲ可トス
然ルニ内務參議「ルアンプラデイト」ハ本年十二月末カ
明年一月初米國經由渡日ノ筈ナルニ付(同人ハ歸國後大藏
參議タルヘシト言ハレ居レリ)其ノ着ヲ待チ同人「ミ」公
使及目下滞在中ノ「プラサラサポラカン」等ト商工會議所
側ヲシテ外務省指導ノ下ニ接觸セシメテ調査方針並ニ調査
ノ結果ノ利用方等ニ付テ協議セシメ内相歸國後右ニ基キ國
務院ヲ指導セシムルコト有效ナリト思考ス之カ爲經濟視察
團ノ來遲遅ルルモ可ナリト思考ス
尙貴電御來示ノ次第ハ亞一機密第一一八號ト何等關係セル
モノナリヤ御同電ヲ請フ右貴信ニ關スル所見本月十一日附
機密公第三六五號ヲ以テ申進シ置キタリ

第九一號

カプール 11月11日後発
本省 11月12日前着

英國ハ現在印度ノ保全ニ専念スル處當國カ最近着々國力ヲ
増シ且ツ四圍ノ狀勢ハ昔日ノ陰謀手段ヲ繰返スヲ許ササル
ヲ以テ是亦當國ノ歡心ヲ求メ居リ八月ニハ小銃約一萬挺ヲ
寬大條件ニテ供給シ其ノ他ヲモ申込中ナリ又印度現當局ハ
着任以來ノ方針ニ基キ來春ノ交迭期迄ニ西北國境問題ヲ解
決シテ禍根ヲ絶タントシ往電第八二號ノ軍ヲ起シタルモ進
行ニ連レ各方面ニ憂フヘキ形勢現ハレ遂ニハ當國及印度内
ノ回教徒ヲ敵トスルノ惧アルコト判明シ自ラ軍隊ヲ撤去セ
ルカ(伊「エ」事件トハ深キ關係無シ)之ニ依リ大イニ「プ
レステイージ」ヲ傷ツケ今後ノ再舉ハ一層困難トナルヘク
明カニ當國ノ印度ニ對スル牽制力ノ増大セルヲ實證セリ
往電第八八號蘇聯邦トノ協定ニ件ヒ英國側ハ印度及其ノ通
過貿易擁護上新タニ當國ノ要望ニ副フ必要ニ迫ラレ「トラ
ンジット」問題(英國ハ從來當國ヲ之ニ依リ「コントロ
ール」シ來レリ)ニ付テモ考慮ヲ約スルニ至リ英公使ハ「デ
リー」ニ赴キ相談中ナリ

今回ノ旅行ニテ當國力資源ニ恵マレ産業進ミ人民ハ健實愛國心ニ富ミ親日氣分盛ナルヲ實見シタルカ當國ノ蘇、英ニ對スル關係ニ鑑ミ日阿ノ親交増進ハ双方ノ國際的地位ヲ著シク互ニ強化スヘシ蓋シ蘇英ノ如キ國々ヲシテ我東亞ノ地位ヲ尊重セシムル爲ニハ先方ノ好意ヲ繋キ無益ナル刺戟ハ避クヘキコトナルモ他方我ニ於テ極東ニ實力ヲ有シ且ツ其ノ上彼等ノ弱點ヲ牽制スル手段アルヲ必要トスヘシ
往電第八八號ノ通り暗送セリ

238

昭和10年11月25日

在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

日タイ調停委員会の構成につき我が方の譲歩
ない限り仲裁裁判条約締結困難の旨意見具申

バンコク 11月25日前発
本 省 11月25日夜着

第二六八號

貴電第一四二號ニ關シ(日暹仲裁裁判及調停條約締結交渉)
本件閣議上程方當方ヨリ時々催促シ來リタル處議會開會中
政府多忙ヲ極メタル爲ト其ノ後主ナル閣員カ交々地方出張

テハ如何カト存ス

239

昭和10年11月30日

広田外務大臣より
在タイ矢田部公使宛(電報)

日タイ仲裁裁判条約につき調停委員会の構成
を紛争発生時に決定する案で交渉方訓令

本省 11月30日後5時40分発

第一七七號(極秘)

貴電第二〇九號及第二六八號ニ關シ

一調停委員會ノ構成ニ付テハ日暹兩國ノ東亞民族トシテノ
共同ノ意識ニ出發シ、紛争モナルベク之ヲ歐米人ノ手ヲ
煩スコト無ク解決セントスル當方ノ主張(此點ハ日蘭條
約ト事情ヲ全ク異ニスル所ニシテ同條約ハ此點ニ關スル
限り先例トスルコトヲ得ズ若シ同條約ト同様ノ規定ヲ設
クレバ現下ノ國際情勢ニ照シ結局常設調停委員會ノ第三
國委員ハ歐米ノ小國人ヲ選ブノ外ナク本條約ヲ締結スル
意義大部分没却セラルベシ)ガ暹羅側ニ依リ充分ニ實現
シ得ザルハ遺憾ニ堪ヘザル次第ニシテ、折角紛争ヲ調停
手續ニ附スルコトニ付原則的一致ヲ見タルニ拘ラズ其ノ

ノ爲殊ニ總理ノ長期請暇ノ爲遷延ヲ重ネ來レル處昨二十三
日本使外務省顧問「プリンス、バンバイ」ニ就キ確メタル
所ニ依レハ今以テ其ノ運ニ至リ居ラサルモ來月初旬遅クモ
中頃迄ニハ上議スル様取運フヘシト言ヘリ(總理ハ本月一
杯請暇シ居レリ)其ノ際同顧問ノ所言ヲ要約スレハ調停委
員會ニ第三國人ヲ加フル點サヘ纏マレハ閣議ノ承認ヲ取付
クルニ困難ナカルヘク畢竟閣議ニ於テモ議會方面ニ於テモ
當然日蘭條約ト比較研究スヘク同條約ノ規定スル程度以下
ニテハ承認ヲ得難カルヘシト云フニアリ

同顧問ハ政府部内殆ト唯一ノ「エキスパート」ニシテ同顧
問ノ意見カ終始右ノ如クナル以上ハ本件閣議上程ノ結果モ
亦同様ナルコト明カナリ實ハ暹羅側閣議上程ノ遅延モ右ノ
結果ヲ豫見シ居レルコトカ主ナル事由ニハアラサルカトモ
觀察セラルル次第ナリ從テ委員會構成ノ點ニ付我方ニ於テ
譲歩スルニアラサレハ成立ノ望殆ト無之モノト思考
セラルル御酌量ノ上往電第二〇八號乃至第二一一號
請訓ニ對シテ何分ノ儀取急キ御回訓ヲ請フ卑見ヲ以
テスレハ結果ノ判リ切り切リタル閣議上程ヲ待ツヨリモ
寧口右ノ點ヲ讓リテ此ノ際速ニ妥結ヲ計ルコトトシ

技術的構成ニ關シ意見ノ一致ヲ見ルニ到ラズシテ此ノ點
ノ困難ガ延イテ本件條約ノ成否ニモ影響スルガ如キ事態
ニ立到リタルコトハ本件交渉開始ノ當初ノ趣旨トモ矛盾
シ、當方ノ所期シ居タル政治的效果ヲ却ツテ傷クルノ結
果トナルベク、右ハ甚ダ面白カラザルニ付テハ此際(イ)我
方原案調停委員會ハ常設的ノモノトセズ條約中ニハ單ニ
兩國間一切ノ紛争ニシテ外交的手段ニ依リ解決シ得ザル
モノハ之ヲ調停委員會ニ付託スベキ旨竝ニ調停手續ノミ
ヲ規定スルコトトシ、調停委員會ハ實際ニ紛争ノ生ジタ
ル時之ヲ兩國間ノ協議ニ依リ設置スルコトトシ(一般議
定書、條約集二〇六、第二條及第五條參照)委員會構成
ノ問題ヲ實際紛争ノ發生シタルトキ迄(當方トシテハ日
暹間ニスル紛争ノ生ズルコトヲ豫期シ居ラズ)延期シ妥
決ヲ計ルカ或ハ(ロ)此邊ニテ本件交渉ヲ打切ルカノ兩者其
ノ一ヲ選ブコト可然ク存ゼラル就テハ此際今一應右(イ)ノ
案ニ依リ先方ノ同意ヲ取付ラル様御交渉相成度シ
ニ第九條ニ關シテハ貴電第二〇九號御稟申ノ「サゼッショ
ン」ノ趣旨ニテ差支ナク又第十二條 as far as possible
ハ之ヲ削除スルニ異議ナキモ右ハ貴官ニ於テ御含置ノ上

可然御交渉相成度シ

240 昭和10年12月19日 重光外務次官より
郷(誠之助)日本經濟連盟會會長宛

タイ国内務參議の視察目的に鑑み便宜供与方依頼

付記 十二月十九日桑島(主計)東亜局長と在本邦タイ

公使との対談要領

右參議の本邦滞在の中の予定等について

亞一機密第二九一三號

昭和十年十二月十九日

外務次官 重光 葵

日本經濟聯盟會會長

男爵 郷 誠之助殿

暹羅國內務參議來朝ノ件

「暹羅國內務參議(大臣)「ルアン、プラディット」氏(Uang Pradit Manudarn)ハ本年八月十日盤谷發歐洲各地視察ノ上目下北米合衆國ニ滞在中ナルカ本月十三日桑港日本郵船會社船太洋丸ニテ本邦訪問ノ途ニ就キ(本月三十日横濱着ノ筈)約十日間本邦滞在中ノ豫定ナル趣ナリ

(付記)

桑島東亞局長「ルアン、プラディット」内相トノ
會談録

昭和十一年一月三日暹羅公使館ニ於テ

一、經濟視察團派遣ニ關スル件

桑島局長ヨリ(一)一兩年來暹羅側ヨリ視察團等續々來朝セラルルニ對シテハ日本民間ヨリモ「リコール」シ以テ日暹ノ親善ヲ愈々促進スル意味ニ於テ又(二)日暹間片貿易救正ノ見地ニ依リ暹羅農產品等ノ調査ヲ行ヒ其ノ他兩國間ノ經濟關係ヲ一層密接ナラシムルニ資スル爲本邦實業家等ヨリ成ル視察團ヲ派遣シ度意向ナル旨述ヘタル處「プラディット」ハ本件ニハ大賛成ナリ、派遣ノ時期ニ付テハ自分(「ブ」)ノ出發迄ニ申上クヘシト答ヘタリ(其ノ後「ブ」ヨリ桑島局長ニ本年三月上旬着暹ノ豫定ニテ派遣セラレ度ト申出アリタリ)

二、伊藤教授後任ニ關スル件

局長ヨリ(一)東西文明ヲ渾然融合セル日本ノ學術文化ハ同シク東洋ニ國固有ノ文明ヲ保有シツ、新文明ヲ採用セ

三、同參議今回ノ諸外國歴訪ノ目的ニ付表向キ暹羅國政府ニ於テハ諸般ノ視察及諸外國トノ友好關係増進ニ在ルヲ發表シ居ルモ當方ニ於テ信スヘキ筋ニ就キ取調ヘタル所ニ據レハ同參議ハ來年二月上旬歸暹ノ上大藏參議ニ就任スル豫定ノ由ニシテ從テ本邦滞在中ハ大藏參議ノ職務ニ直接又ハ間接ニ關係アル財政經濟上ノ諸般ノ事項ニ付視察研究シ度希望ヲ有スル趣ナリ尙同參議ハ暹羅國文化向上ニ付テノ最大急務ハ舊政權時代ニハ全ク顧慮セラレサリシ道路及橋梁ノ建設ニ在リト確信シ居ル由ニテ(本年六月同氏ノ主宰スル暹羅國內務省ニ於テ本邦人士木技師二名ヲ傭聘シタル次第ハ既ニ御承知ノ通)從テ今次來朝ノ機會ニ本邦土木事業ニ付テモ充分之ヲ視察シ度意向ノ由ナリ

就テハ同參議本邦滞在中歡迎其ノ他ニ關シテハ貴方ノ御盡力ヲ御依頼スルコトアルヘキ處何レ當方係官ヲシテ貴方ト御打合せシムル筈ナルモ以上ノ次第御含ノ上同氏來朝ノ上ハ同氏ニ對シ出來得ル限り便宜供與相成様致度右豫メ御依頼申進ス

追而本信内容ハ機微ニ亘ル點アルニ付外部ニ漏洩セサル様御注意相煩ハシ度

ムトスル暹羅國ノ爲大ニ貢獻スル所アルヘシト信スルカ故ニ此ノ際是非伊藤ノ後任者トシテ本邦學者ヲ招聘セラレ度キ旨及(先方ニ難色アリタルヲ以テ更ニ)(二)元來伊藤ノ契約期間ニ對スル暹羅側ノ申出ハ三年トノコトナリシモ伊藤ノ個人的理由ニ依リ之ヲ一年半トシタル經緯モアルヲ以テ少クトモ一年半タケナリトモ後繼者ノ招聘アリタキ旨ヲ申入レタルニ對シ「ブ」ハ(一)暹羅國ニ於ケルニツノ大學タル「チュワロンコン」大學及文政大學ハ以前ハ政府ノ一般會計ニ屬シタルモ其ノ後特別會計ノ下ニ置カルルニ至リ而モ大學ノ經費不足シ高給ナル外國人教授招聘ヲ繼續スルコト能ハス(二)大學教授ハ今後ナルヘク暹羅國人外國留學生出身者ヲ以テ之ニ充ツル方針ニシテ尙實際的方面ノ事項ニ付テハ政府ノ外國人訪問等ノ實際家ヲ選ヒテ講議セシムル考ナリ(三)右様ノ事情ナルヲ以テ若シ日本人講師ヲ必要トセハ三原博士ヲ「エキスパート、エンド、プロフェツサー」トシテ大學ノ講議ヲモ依頼スルコトヲモ考ヘ居リ(コレナラハ比較的經費ヲ要スルコトナカルヘシ)(四)以上ノ通り伊藤教授ノ後繼者ヲ招聘セサルハ専ラ經費不足ニ依ルモノナレハ惡シカラス御諒承

ヲ請フト云ヘリ
尙局長ヨリ本件「プ」ノ再考方要求シ置ケリ（別ニ申進ストスルコト）

三、地方長官ノ來朝ニ關スル件

局長ヨリ暹羅國政府ハ多數ノ地方長官ヲシテ日本ヲ視察セシムル計畫ヲ有セラルトノコトナル處果シテ眞ナリヤト問ヒタル處「プ」ハ其ノ通りナリ但シ右派遣ノ爲ノ特別ノ經費ナキヲ以テ日本視察ヲ希望スル地方長官ニ對シ其ノ俸給（一ヶ月四百銖乃至六百銖ノ由）ヲ旅行中モ全額支給スルコトトシテ費用ニ充テシムル所存ナリトノコトナリシヲ以テ、局長ヨリ單ニ希望者ヲ募集スル丈ニ止メス「プ」ニ於テ大ニ勸誘スルタケノ熱心ヲ持タルルニ於テハ當方トシテモ大ニ盡力スヘシト云ヘルニ先方ハ大ニ勸誘スヘキニ付宜敷御依頼スト云ヘリ、尙「プ」ハ來朝者ヲ大体十人一組ニテ五組若ハ六組トシ各組ニ一人若クハ二人ノ英佛語ヲ解スル者ヲ配屬セシメ其ノ他各組ニ南方出身者及北方出身者ヲ配スル等其ノ組合セニモ意ヲ用フヘク本件計畫進捗ノ曉ハ在暹本邦公使館側トモ打合スヘシト述ヘタリ

ノ調節ニハ大ニ頭ヲ腦^{（腦力）}シ居リ之カ爲曩ニ棉花栽培ニ付テ盡力シタル次第ナルカ右ト同様片貿易ノ調節ノ目的ヲ達スル適當ノ物資ナキヤト持チカケタル處「プ」ハ煙草ニ付テ棉花ト同様ノ方法ニテ協力ヲ得タシト述ヘタル由ニテ局長ヨリ協力方考慮スヘキ旨告ケ置ケリ

ハ、通商條約改訂ニ關スル件

局長ト「プ」トノ間ニ本件ニ關シテハ各般ノ關係ヲ慎重ニ考慮スル等特ニ周密ノ用意ヲ以テ之ニ臨ムノ要アル旨語リ合ヒタリ

九、財政組織ノ改善ニ關スル件

「プ」ヨリ御恥シキ次第ナルカ暹羅國ニハ中央銀行ナク現在ハ暹羅商業銀行ニ於テ中央銀行ノ職務ノ一部ヲ行フノミニテ甚タ不完全ノ狀態ニアルヲ以テ大ニ改善セサルヘカラス最近滿洲國中央銀行ノ完成シタルヲ見甚タ羨望ニ堪ヘサル次第ナルヲ述ヘタルヲ以テ局長ヨリ滿洲國中央銀行ノ完成ハ主トシテ本邦ノ援助ニ依ルモノニシテ暹羅側カ希望スルニ於テハ中央銀行設立ノ爲本邦ヨリ援助ヲ與フルニ吝ナラサル旨述ヘ不遠調査ノ上盤谷ニ正金銀行支店ノ開設ヲ見ル等ニテ將タシテ右實現ノ曉ニハ同支

四、汎太平洋佛教青年大會開催地ニ關スル件

「プ」及「ミトラカム」公使トモ乘氣ニテ經費ノ點等ニ付テハ何トカ工夫スヘシト云ヒ居レル矢先本國政府ヨリ暹羅ニ於テ開催不可能ナル旨ノ電報ニ接シ先方ハ當方ニ對シ遺憾ナカラ暹羅側トシテ本件受諾シ難キ旨言明スルニ至レリ

五、日暹國交五十週年紀念事業及山田長政紀念事業ニ關スル件

「プ」ハ日暹國交五十週年紀念事業トシテ山田長政ノ銅像建設ヲ考慮シ居レル旨述ヘタリ

六、碎米輸入解禁ニ關スル件

局長ヨリ本件解禁ノ困難ナル事情及當方ノ努力ニ依リ其ノ一部ノ解禁ヲ見タル次第ヲ述ヘタル處「プ」ハ外務省側ノ御盡力ニ付テハ「ミ」公使ヨリモ充分報告ヲ受ケ居リ深ク「アプレシエート」スル所ニシテ本件ニ付テハ暹羅側トシテハ此ノ上殊更申出テス一二日本側ノ御盡力ニ依頼スルノミナル旨述ヘタリ

七、片貿易調節ニ關スル件

局長ヨリ本邦トシテハ米ノ問題ノミナラス兩國間片貿易

店長ヲ貴下ノ私的顧問トセラル、モ一便法ナリト附言セルニ「プ」ハ之ヲ感謝シ尙同支店ニ對シ出來ル丈ケノ援助ヲ依頼シタルニ之ヲ甘諾セリ

八、土木技師ノ招聘ニ關スル件

「プ」ハ暹羅國ノ發展ノ爲ニハ交通運輸機關ノ發展ヲ要スルコト固ヨリナルモ同國ノ現状ニ顧ミ焦眉ノ問題ハ八千「キロ」ニ亘ル地方道路ノ完成ニシテ之カ爲ニハ將來本邦側ノ援助ヲ請フコトアルヘク必要ノ場合ニハ本邦ヨリ土木又ハ建築技師ヲ招聘スルコトアルヘキ旨述ヘタリ

尙局長ヨリ東稻垣兩技師ノ地位ニ關シ暹羅側頭初ノ言明ト實際トノ間ニ差異アル點ヲ指摘セルニ對シ「プ」ハ種々^{辯明}スル所アリタリ（本件ニ付テハ其ノ後東亞局長ニ於テ宮崎書記官ヲ同伴「プ」ト會談シタル結果「プ」ハ歸國ノ上適當是正方「リコンシダー」スヘキ旨ヲ約セリ）

241

昭和10年12月20日

在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛（電報）

日タイ仲裁裁判条約に関し外交顧問に調停委員会議歩案を提示したが日蘭条約と同等を主張につき交渉延期について

付記 作成日不明、作成局課不明

「日暹仲裁裁判及調停條約ニ關スル件」

バンコク 12月20日後発
本省 12月21日前着

第二九〇號(極秘)

貴電第一七七號ニ關シ(日暹仲裁裁判及調停條約ニ關スル件)

十二月三日「バンバイ」顧問ニ會見本件閣議上程前我方所見ニ付更ニ考慮ヲ求メ置キ度シト前提シ冒頭貴電御垂示ノ趣旨ヲ体シテ從來我方主張ノ諸點ヲ反覆説明シテ調停委員會議成ニ關シ我方提案ノ通ニテ閣議指導方申入レタル處「バ」ハ相變ラス

(一)右案ニテハ事實上小國タル暹羅ハ到底大國タル日本ニ對シ對等ノ主張ヲ爲シ得サル次第ニテ委員會組織ノ問題ハ單ナル技術上ノ問題ニアラスシテ重要ナル主義上ノ問題ナルコト

ハ決定シ難シト考ヘラルルカ故ナリ尤モ日蘭條約ノ modelニ依ルコトヲ日本側ニ於テ承認スルニ於テハ直ニ閣議ニテ決定ノ筈ナルモ日本案ニ依ルトセハ直ニ Yesノ決定ヲ爲スコトハ困難ニシテ寧ロ「プラデイツト」歸國ヲ待タル方「チャンス」多キ様ナル旨述ヘタルニ付結局當分本件會談ヲ延ハスコトシ當日ノ話ヲ打切レリ

(付記)

日暹仲裁裁判及調停條約ニ關スル件

(欄外記入) 松本條、二、課長ニ條約局ノ意見ヲ質シタル處目下、ハ、ニテハ、往電第一七七号ノ「ライン」ニテ妥結シ得サレハ寧ロ

打切リトスルヲ可ナリト思考シ居ル旨述ヘタリ(主トシテ枢密院ノ意向ヲ顧慮スルモノナル由)仍ツテ全然小官ノ私見トシテ(一)ソレニテハ先方ヨリ歩寄リ來ル可能性少ナキノミナラス矢田部公使來電第二九〇号ノ(一)末段ノ「プリンス、ヴァンヴァイ」ノ述ヘタルカ如キ懷疑ヲ先方ヲシテ持タシムルコトナキヲ保シ難クカクテハ他ノ交渉事項ニ惡影響ヲ与フル虞アレハ却ツテコノ機會ニ會談事項トシテ持出ササルヲ可ナリトモ考フルコト(二)本件條約ヲ初ヨリ提案セ

(二)日本カ等シク小國タル和蘭ニ認メタル所ヲ暹羅ニ與ヘサルハ差別待遇ニシテ此ノ點ニ付自分ハ閣員ヲ納得セシムルニ足ル確信無キコト

(三)暹羅トシテハ將來歐米諸國ヨリ日本ノ提議ト同様ノ條項ヲ要求セラレタル場合之ヲ拒ミ得サルニ至ルヘキコト等ヲ述ヘタル上何等カ日本側ニ格別ノ動機アリテ第三國人ノ介入ヲ阻止セントスルニアラスヤト疑念ヲ挾メルカノ如キ口吻サヘ漏ラシタリ

(四)之ニ對シ本使ハ委員會ノ構成ニ關シテ日蘭條約ト同様ノ規定ヲ採用スルコトハ到底不可能ナルヲ知ラシムルト共ニ閣議ノ決定ヲ餘裕アルモノタラシムル爲當方ヨリ何等政府ノ意ヲ受クルモノニハアラスルコトヲ述ヘ此ノ際唯一ノ alternative ハ委員會ノ構成ニ關スル規定ヲ全然削除シ單ニ紛爭ヲ委員會ニ委託スルコト並ニ調停手續ノミヲ規定スルコトナリト告ケタルニ「バ」ハ暫ク考ヘタル後夫レハ a little better ナリト答ヘ本件ハ十三日ノ閣議ニ上程スルコトニ取計フヘシト述ヘ居タリ然ルニ其ノ後十七日「バ」ト再ヒ會見シ閣議ノ結果ヲ尋ネタル處末タ上程ニ至ラス實ハ本件ハ「ルアング、プラデイツト」歸國ノ上ニアラサレ

サルト、途中カ、ル事情ノ下ニ中止スルトハ先方ニ与フル影響上大差アルコト(三)東洋人ノ東洋ト云フ「イデオロギー」ニハ勿論賛成ニシテ機會アル毎ニ先方ヲ誘導啓發シタキモ今直ニ之ヲ強ユルコトハ當方ノ實質的進出ニ有害ナリト思考スルコトヲ附言シ置ケリ
尙全課長ハ條約局長トモ相談シ條約局トシテノ意見ヲ定メオクヘキヲ以テ東亞局トシテモ全局トシテノ意見ヲマトメオカレタシトノコトナリ

(欄外記入)

東亞局長ヨリハ進ンテ話ヲセズ

242

昭和10年12月28日

在タイ矢田部公使より
広田外務大臣宛(電報)

經濟使節團派遣に対するタイ国要人の対応振
りについて

バンコク 12月28日後発
本省 12月28日夜着
第二九四號

往電第二四〇號ニ關シ（經濟視察團派遣ニ關スル件）
貴電第一五三號ノ御趣旨ヲ體シテ二十四日定例會見ニ於テ
外務參議ニ對シ内意ヲ質シタル處政府ハ喜ンテ萬般ノ便宜
ト協力ヲ與フヘシト確言シタリ次テ二十七日經濟參議ニモ

會見シテ同様意嚮ヲ質シタル處政府トシテノ意見ハ正式ノ
交渉ヲ俟チ國務院議ヲ經タル上ナラテハ何トモ申兼ナルモ
自分限りニ於テハ大イニ歡迎スヘシト答ヘタリ内務參議近
日中着京スヘキニ付右御含迄電報ス

付 米国実業家極東視察問題

243 昭和10年1月1日 在ニューヨーク沢田總領事より
広田外務大臣宛（電報）

極東經濟視察團派遣の主眼を中国とする方針
につき日米通商協議會議長の説明振り

ニューヨーク、1月1日後発
本省 1月2日後着

第一號

客年往電第一八一號ニ關シ
客月二十七日「トマス」ヨリ同二十七日例會ノ議事録ヲ送
付シ來タリタル處其ノ決議録トシテ「日米通商協議會ハ對
支米國視察團ニ於テ日本ヲモ訪問センコトヲ希望ス」トノ
趣旨ニ改刪セラレ居リタルヲ以テ直ニ電話ヲ以テ其ノ注意
ヲ促カシタル處「ト」ハ實ハ其ノ後米支協議會ニテハ若シ
訪日團ヲ派遣スルトシテモ夫レハ差當リ兩國間ノ好意増進
ト云フ程度ノモノナル處支那視察團ハ未開ノ市場ヲ調査シ
テ（脱）日本ヲ支那同等未開國扱ニスルハ當ラストノ意見
ニテ從テ今回ハ支那視察團ノミニスルカ精々該團體ニ二箇

ノ「セクシヨン」ヲ設ケ其ノ一ヲシテ日本ニ立寄ラシムル
コトトスヘシトノ希望ナリ視察團ノ費用調達ノ上ヨリ云フ
モ目標ヲ支那ニ置クコトトセサレハ釀金ハ困難ナル次第了
解アリタキ旨ヲ答ヘタリ依テ本官ハ右ハ昨日迄ノ相談トハ
性質ヲ異ニシ來タレル次第ニテ米支協議會カ對支視察團ヲ
送ルコトハ自由ナルヘキモ之ト同様ノ地位ニ在ル日米協議
會トシテハ右視察團ノ爲日米ノ間ニ何等疑惑誤解ノ生セサ
ル様仕組マレンコトヲ希望シ敢テ過當ナラスト信ス依テ更
ニ貴下ト懇談ヲ遂クル迄米支協議會ノミニテ事ヲ確定セサ
ルコトヲ望ム旨ヲ述ヘタルニ「ト」ハ三十一日本官ヲ來訪
スヘキ旨約束シタリ

其ノ後貴電第一〇七號^{電注}接到依テ三十一日ノ會談ニ於テ本件
ニ關シ日本經濟聯盟ヨリ全米貿易評議會宛電信アリシ筈ナ
ルヲ尋ネタルニ未タ承知セサル旨答ヘタルヲ以テ本官ハ聯
盟側希望ノ二點ヲ傳ヘタルニ「ト」ハ米支協議會側ニテハ
昨三十日モ協議ヲ重ネタル結果矢張支那ニ目標ヲ置キタキ
意嚮ニテ名稱モ「アメリカン、エコノミックス、ミツシヨン、
ツー、チャイナ、アンド、ゼオリエント」トシ英國其ノ他
歐洲諸國カ屢支那視察ヲ行ヘルニ拘ラス米國ハ一九一一年